

一甫漫集

五

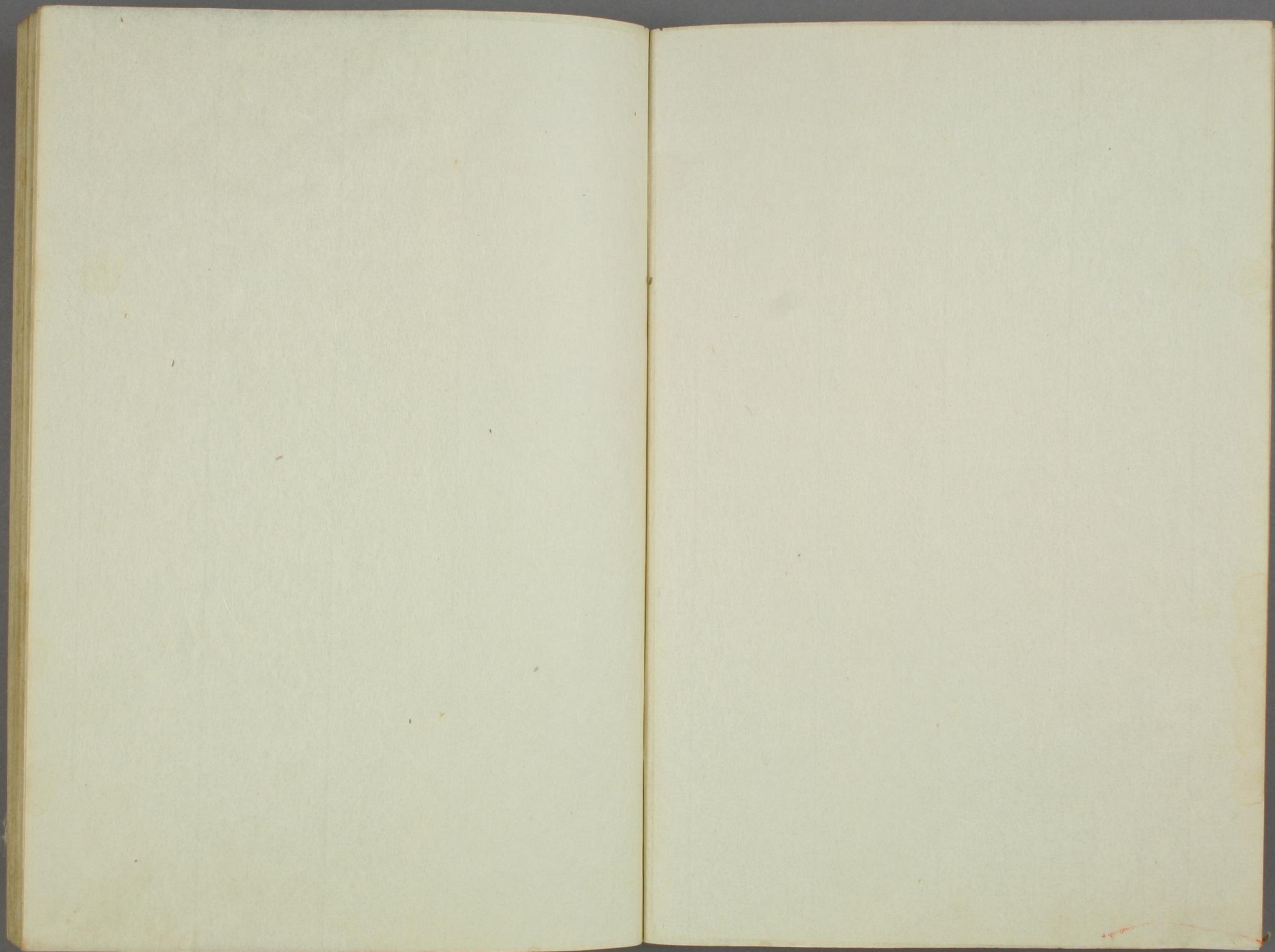
菜變艾	古印	刀劍古刀	鱗口	古甲冑	古銅印	驛路鈴	懸想文	<small>徒然</small> 秘夾之大夏
	瓦偶人	蚊帳画匣	扶桑木	金澤文库	古代磨	古鈴	久安机	鮫驚

1 曾 5
3 5
5

1 5
3 5
5







曾
35
卷

徒然草秘决之大夏

南無阿彌陀佛

布る木瓦

白る

大臣太饗

小野小所

揚名之人

〜

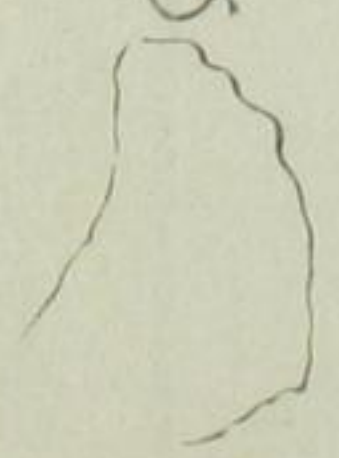
放免附物

右七箇条下堂風沙著述而授與人
和子

正德甲午季權十三日

布の木瓜

大月曜と七の月妻とく廣狭あるりか決
といへとも 天子尋常お海へ夜のおとす
地と去る事久くす 諒闇よこととせま
河の清たけ所を然と此とせ人よ是を
減さすもしを板敷と下とすり付るす
芦此沖簾とく浮与簾の類りともふ
又と巾洗利り塚と形りまき糸と
編もるとのこたると玉簾朱房の



ちき湯事あるまともけ何の沖簾と魚の地
に致る湯事あり其紋とく木瓜と云
らるる 妻身とけ花り飛雪に
全り四神お魚と 天子と守護
せしむるの曜ありきし布の木瓜と云

白くすもや

舟僧都或法師と身とく 白くすもやと名を
舟の事とくけ僧都と兼好自ら
あり法師とく合り盛親僧都と事と

評判———とある文と書次は此の代に
漢の事史記漢書等にも多し。ゆゑ
自問自言の格あり。抑白くも事
美系集よふ。ゆゑも玉のむ。ゆゑ
漢———の故事あり。根を———
卒竟白くも事あり。此中畧く調く白
くも事あり。ゆゑも故事も水程あり
ゆゑも事あり。ゆゑも事あり。ゆゑも事あり
星雲と云く。ゆゑも事あり。後よも思
預くも事あり。異朝代の國玉の

冠は造る。是と靈冠と名け。朝鮮國王も
とく。韃靼の外也。日本氏こと云ん
え。高の賢臣箕子と封。誦成故よ
け靈冠と冠。次は古神宮皇后三韓退
治。印河の靈冠と尾簪と二つ。征伐の
記。標よ。えて。帰。お。ま。ま。ぬ。尾。簪。を。日本。の
濟。の。ゆゑ。も。事。あり。ゆゑも。事。あり。ゆゑも。事。あり
納。の。ゆゑ。も。事。あり。波。江。旅。記。ゆゑも。事。あり
夫。ゆゑも。事。あり。秋。朝。ゆゑも。事。あり。皇。子。ゆゑも。事。あり
武。靈。冠。と。名。け。代。々。天。子。ゆゑも。事。あり。印。冠。と。名。け。る

け故事と文とけ盛親僧都御書字
通宗の法燈をきと一子り師もる巻
して合り靈冠りかると比類一きり
ぬとせり白りるるころり
之と冠もるるんと保り称免りるる

大臣太饗

大臣の大饗を持家の大に家り任大臣の時り
況り食通の源氏玉か法りの巻も大臣
大饗食りるる事と書り今ころ

武家り政道政ともかとも首の之と
天下り上りるる万歳り事と兼りひか
を大蔵り太宰府鎮守府とも事も
之と公とらやして東西に配りるる事
任大臣りくく勾當の内侍とありけ勾當の
内侍と十二人の内侍り中れ首と一内侍
官女ありけ陣り勾當内侍二十以上の比は
あとも長駕り局へ移り給ひあとも二十
以下り内侍とかきり是と勾當の内侍
一とわらりけ大臣一天下り權と持

重蔵の故を公り不伝とす。天子自ら波月泊と申同車
に〜内侍不〜申入神鏡とす。自然
大長不實の愛ある河〜申通有〜
天皇の新田義貞より〜申同車
〜大長内侍と同車と退出〜
故より〜申〜大長不實
持家の立より故より女院と〜申一類〜

小野小町

一石四人〜出羽郡司良實の娘
小町〜奥州小野の常澄の娘小町
為隆國造義景の娘〜玉造り小町
〜上野の権國の娘〜小町
古代の一國〜宛采女と月淫〜
仁波三白王の采女と小町
六十四人〜采女と后所の采女
〜故より小町
〜小野塚の采女と大内
文正の公〜古今の海〜

暮と久しかりし名月傳のこぼれと小野の良実の
娘小中、小所をわすれとぬれたるをて極めて定り
可し、次言野大師の道より所吾是温家之
子良室之女焉、於時橋慢最甚、妻日秋心歎、猶
深と誓ひしと、玉造小所之實方朝長、陸奥へ
下向り、所古き體觸り穴とて、薄の生れと
りふめ、小所も小野當流り娘り小所
可し、文屋康齊の河より採りて、こ下り
所身と浮草の根と汲りて、濁りて、こ下り
國分り娘の小早こ、也、此に、濁りて、こ下り

けり、人々と濁りて、こ下り、玉津流り、業平り
年、の油り、こ下り、良実の娘の小所、也、
か、こ下り、こ下り、す、と、交り、故、所、代、り、こ下り、
見、是、女、も、こ下り、こ下り、こ下り、こ下り、
賑り、所、の、名、も、こ下り、こ下り、こ下り、
と、汲り、能、女、の、名、も、こ下り、こ下り、
良實の娘の小所も、こ下り、こ下り、
和、言、も、こ下り、こ下り、こ下り、
も、小所も、小中、に、飯、も、こ下り、
に、あ、り、こ下り、

揚名之次

揚名ゆゑに各斗國の守りなりてきめ身に
おらるゝ郡に任じりての事と云ふに徒然の政
と世間と揚名ゆゑに上者斗とて揚名
と云ふもあはれと云ふも人の為に政事要界
と云ふてあはれと云ふもいかに源由流と
穿鑿する所な事と云ふは
あはれゆゑに
守りてとて常陸。上野。上總と云ふ

親王の守りて國に守りて守護職の守り
親王に任じりての事と云ふは
親王とゆゑに守りての事と云ふは
と揚名ゆゑに云ふに太子親王の師範
と云ふに重職なりて源氏の國とありて
入部と云ふに親王の昵と云ふに正道
は教誡と云ふに武家の上總と云ふ
尾張と常陸と紀州へ上野と云ふ
司と云ふに免れりて源氏又教りて卷に揚名の
ゆゑに人の家より人傳りてと書りて

故事ふるゝ源氏と云ふ所々々
上と式部と云ふ所々々
揚名久も不習と云ふ所々々

かよ子鳥

序女の事し孝謙天皇に亡霊化し
かゝる事と云ふ所々々
又本朝の源氏
あまの源し秘し世の事と云ふ所々々
題々天子と何事と云ふ所々々

口交ある事し
秘訣と云ふ所々々
事減日と云ふ所々々
附翔と云ふ所々々

放免の舟と云ふ

放免の舟と云ふ事
放免四人加茂の事
と云ふ所々々
加茂の事と云ふ所々々
抑家親の事と云ふ所々々

こ子も代々神孫の印血脈よりをく
の種ありすけり杖桑の霊神月と
日と配りて禁裏へ守護し申す別
雷のこも救免り神と号し水火震雷
と目りて石門と帝都と鎮護し急災と
除ひあり又故賀茂り祭を内裏
より新をせり凡六十條州と諸社祭禮多
き中にこ子りの法祭と云を賀茂り
あり其祭禮と救免の所也と執せり
事しけ救免と云先官人の事と云

古き御幸杯の鈴と甲冑と
武衣と書てあり是放免の法也と
云之し法也と云と緋の布と云と
るの事しきと尾髪と灯籠と云と
多し相救免者の水二と云と
井と云と馬と云と二通と云
くも古き公は加茂の御神
君臣の誠と合神と云と王法加護
と云と代り樂の事と云と
況し多事也

右七箇条傳授の通書

雪下堂

嵐沙

風江庵

止塘

正徳 甲午稔

穰 八月十六日

惣想文賣



今春とく之日も京改重く積了
就中一日あつて人雪とく四日あつて
东山色多し申す見よく出らん
科現家杯も久しと賣切しし由
又早女好士家の競向しと子寄又ハ
二年浪草ホよし申す愈も又賣切積
姿ハ是江布り清しとちいしとて

とく顔と白小綿とく包く少濃
烏帽子と急るはとま妻の及り
小次郎坊弁林画より人常と前紙
行達組とくおの所と物と
声とく〜皆さし求るとよに
賣草よりたくと價を〜と
右一海判とく〜と〜と画と

かたし海はるしとて作らるる
しるし 流し 一 雜記 記
竹尖のくちしるしに
心懸きもとみ 安んじ 是上し
西一 笑し

江下 一 舟のくちしるし
くちしるし 舟のくちしるし

押し 一 舟のくちしるし
恋し 一 舟のくちしるし
舟のくちしるし 舟のくちしるし
舟のくちしるし 舟のくちしるし
舟のくちしるし 舟のくちしるし
舟のくちしるし 舟のくちしるし
舟のくちしるし 舟のくちしるし

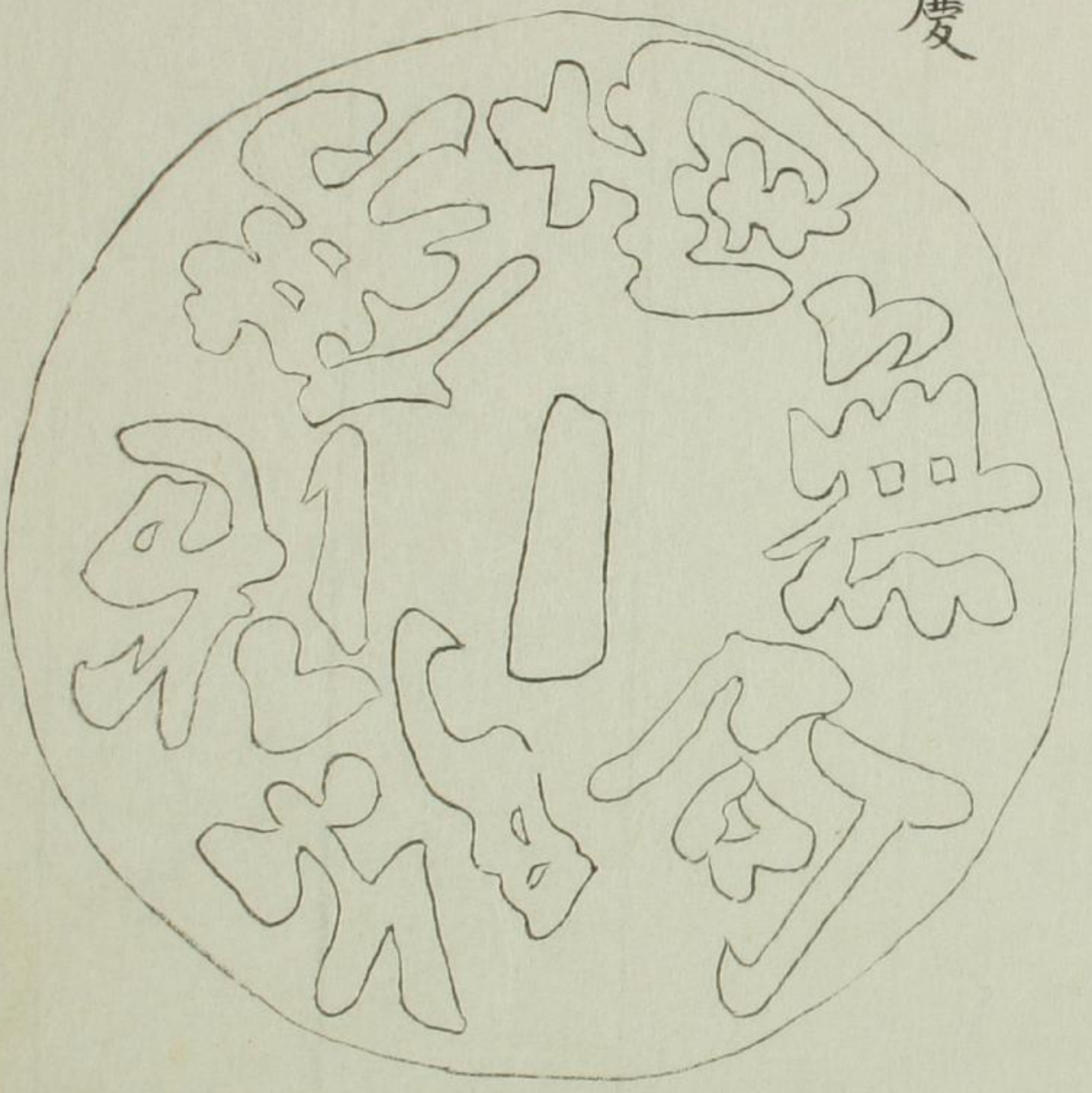
おのゝ次

おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次

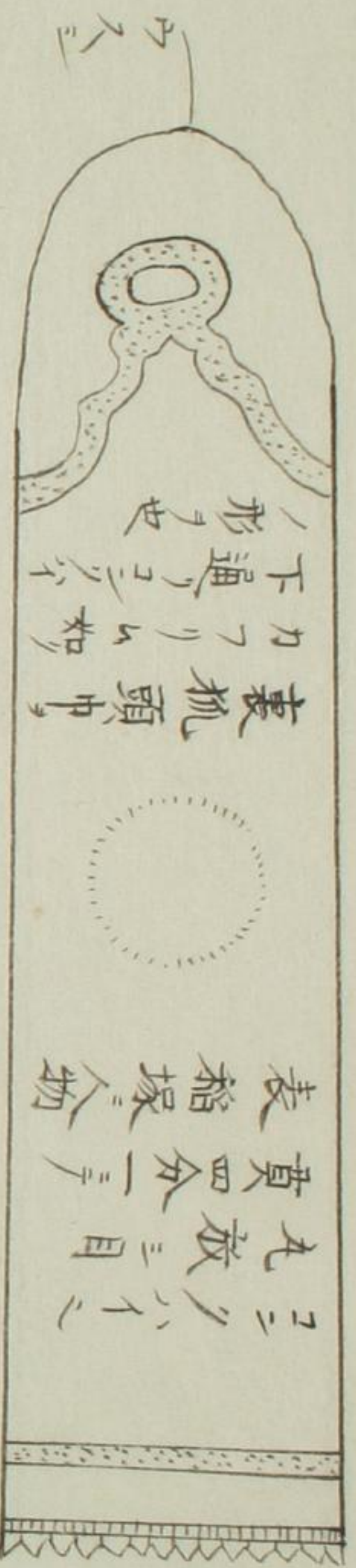
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次

おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次
おのゝ次

武藏坊辨慶
六字之力盤
奥州平泉
中尊寺
辨堂藏



卷下ノ較之所青火姫路草

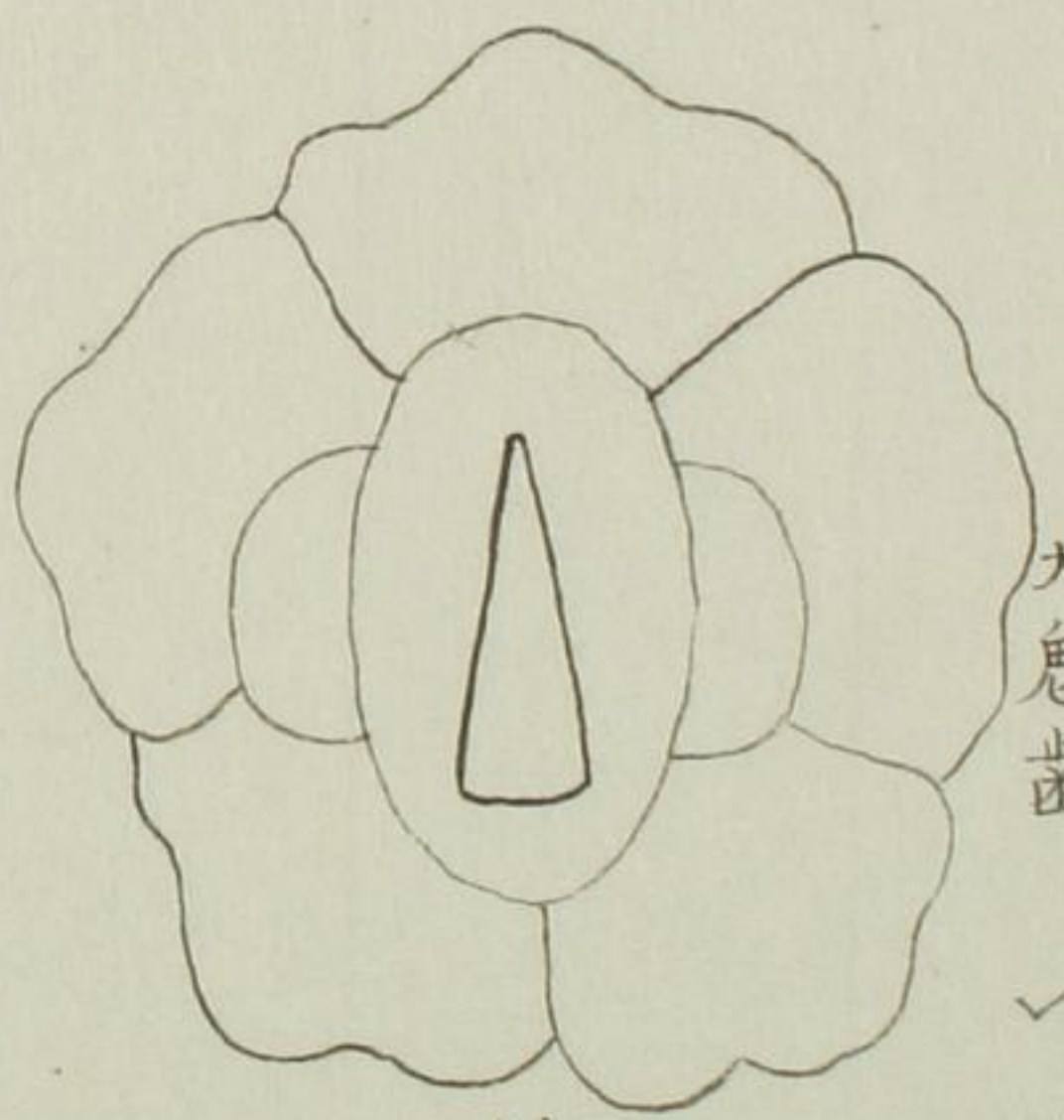
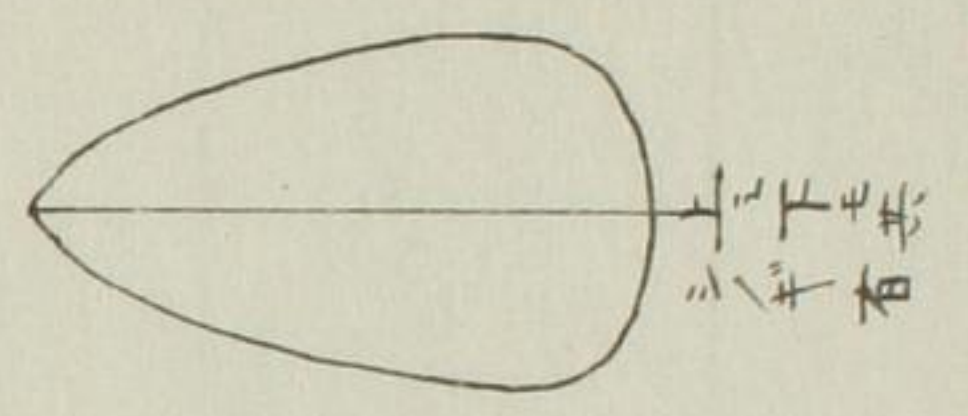


本身作左衛門指添脇差

切羽三枚

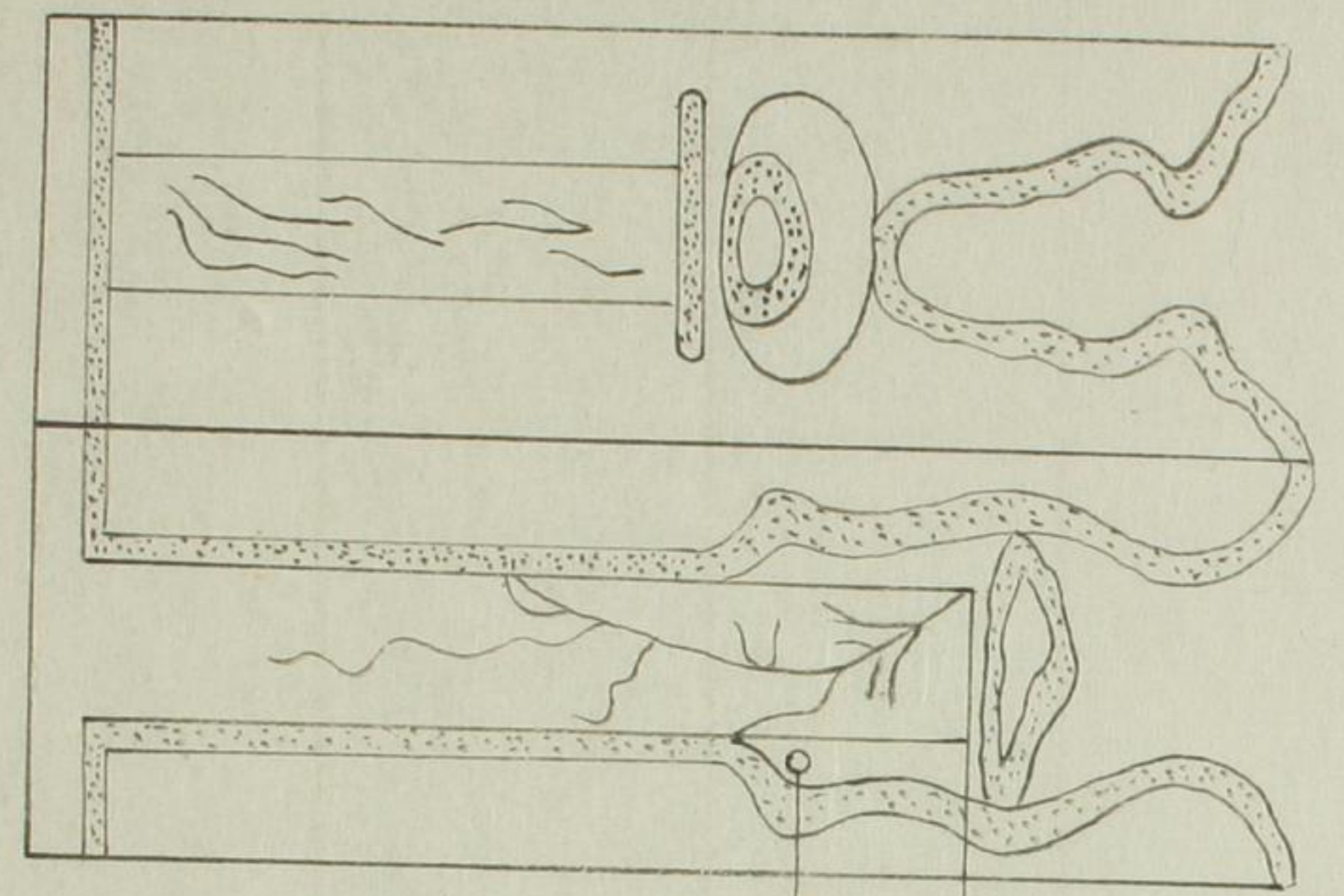
上赤銅切廻り堅
下金焼片
大鬼齒

比位鐔下切羽三枚



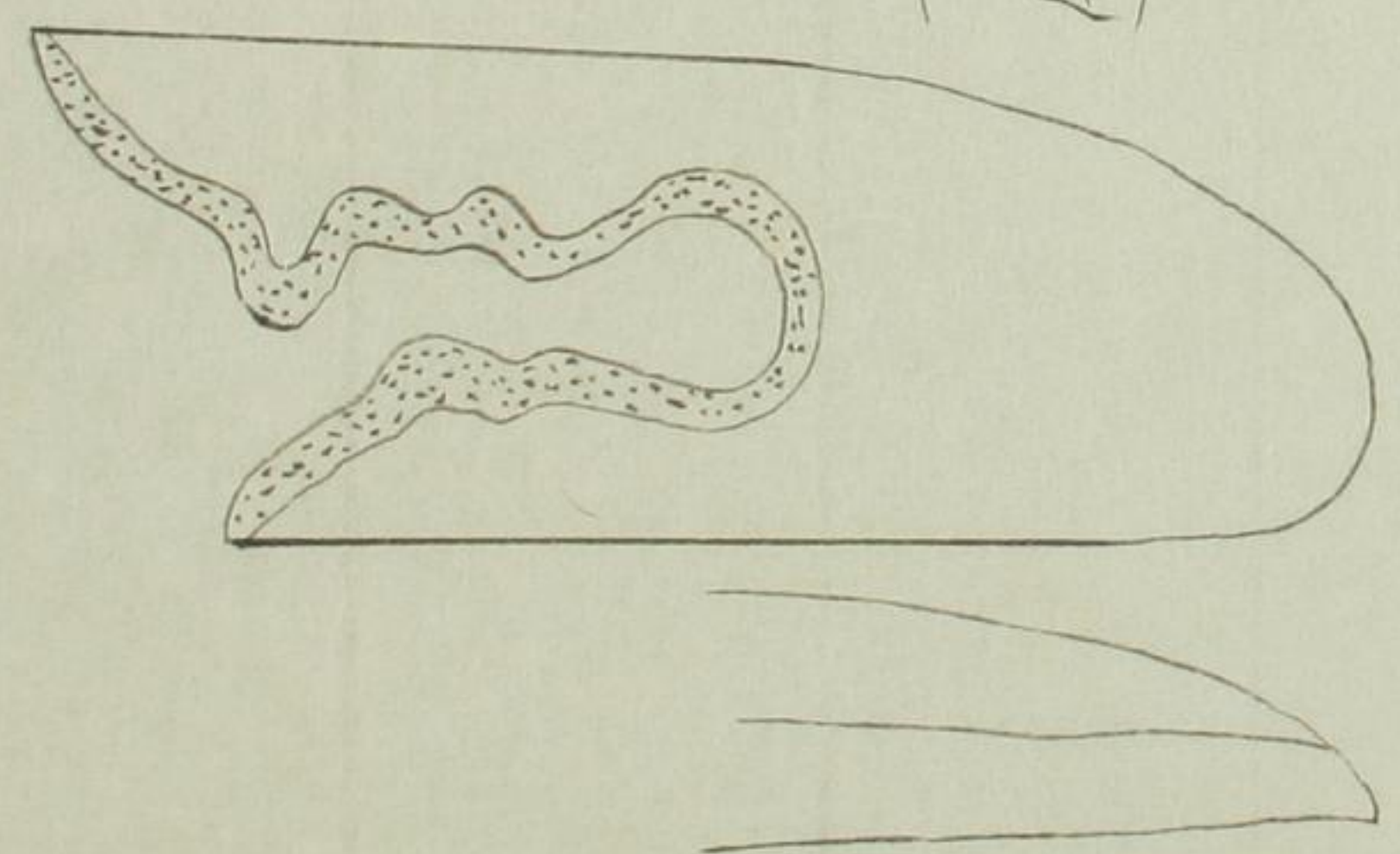
鍍無地厚色

惣銀無地小緑ノ針子



鞘地青漆黒ニテ金トギ出シ
鶉ノ塗

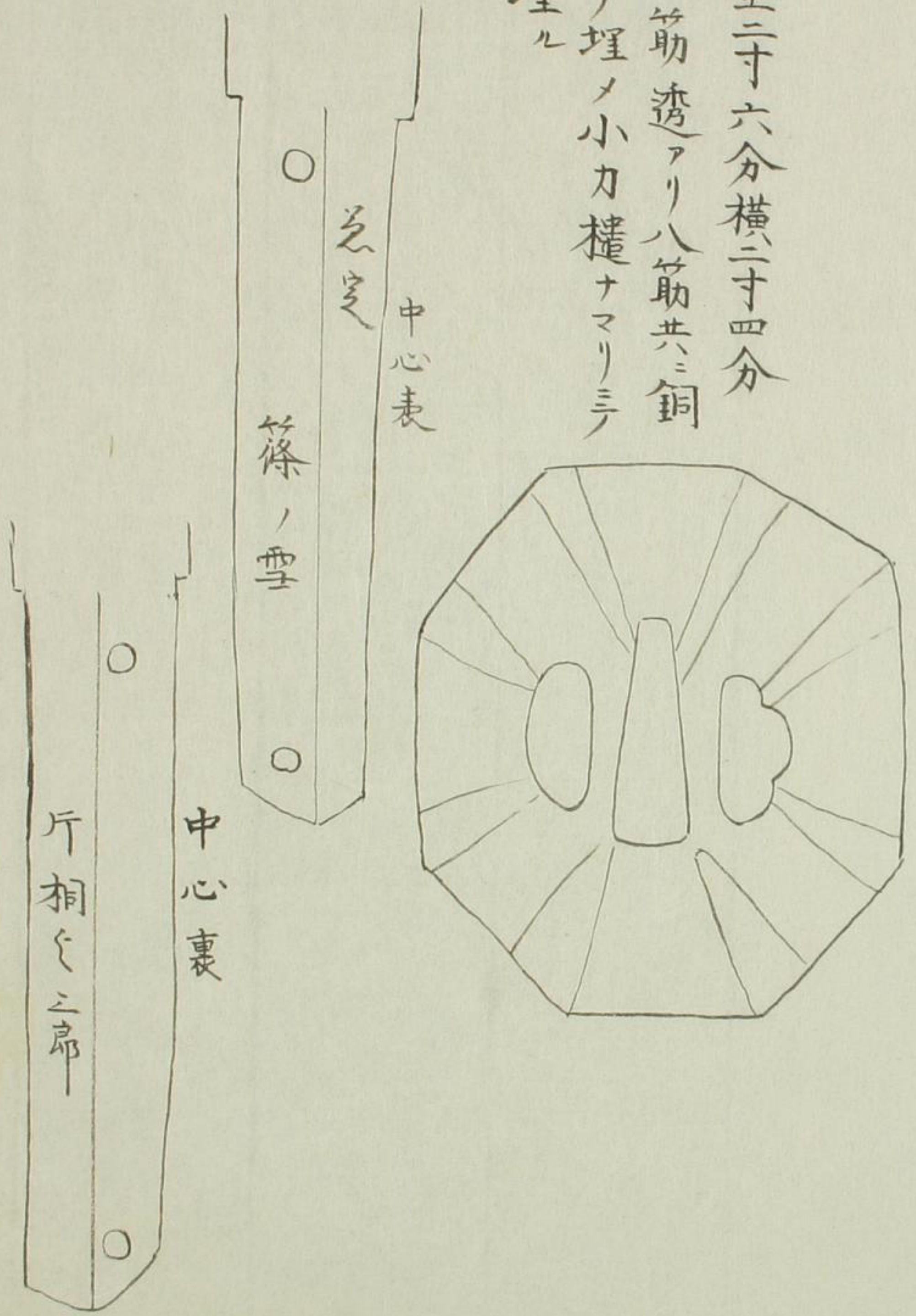
比ヒツ斗リ
銀ニテ張込
○サヤ吹

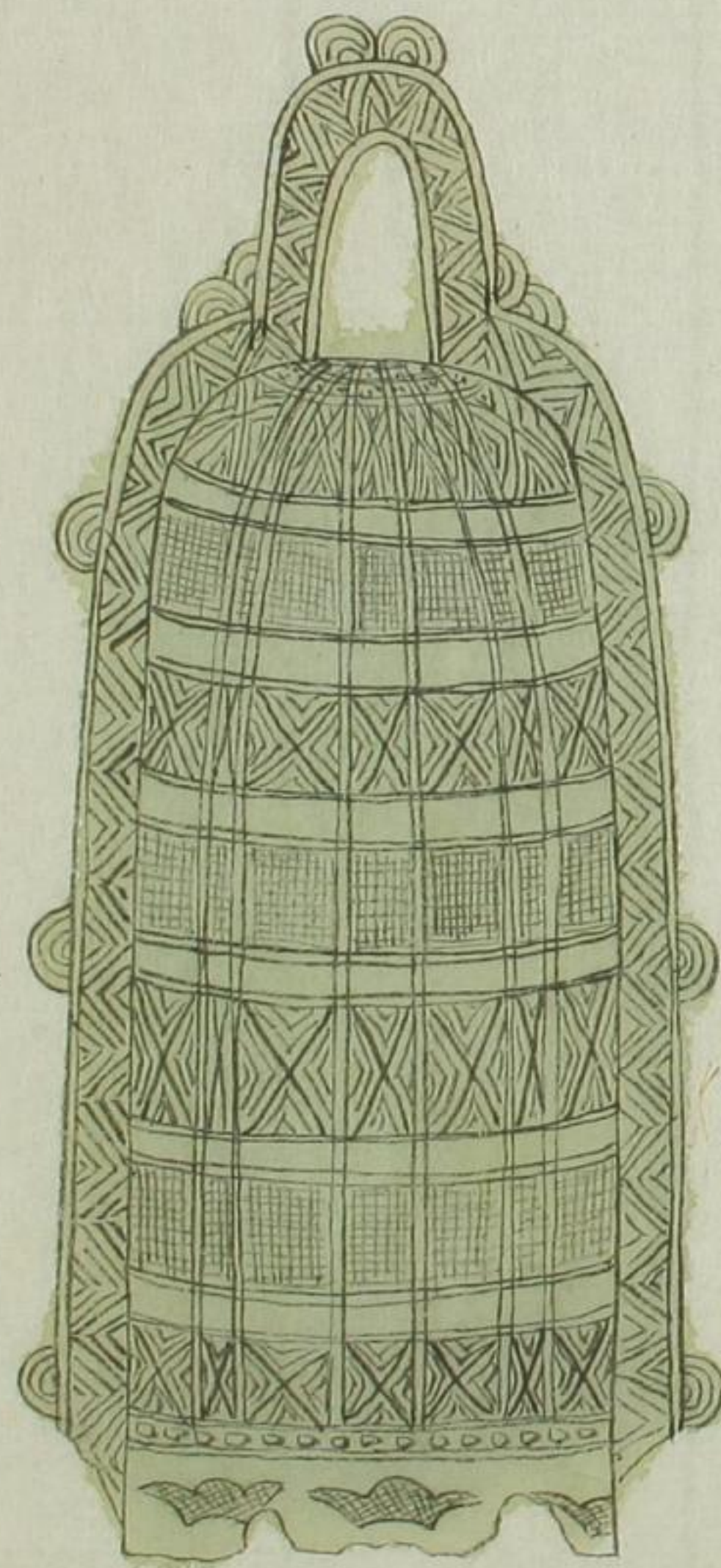


天正十二年四月九日尾州長久平合戦ノ時
 永井傳八郎分捕池田勝入ノ刀注文

- 一 長サ戴尺戴寸二分 及乱
- 一 柄長サ六寸七分 草ニテ卷
- 一 柄 鯨黒塗
- 一 緑赤銅筋ニ竹助
- 一 目貫一疋獅子金
- 一 柄頭角
- 一 切羽金無垢小刻
- 一 鉏金二重
- 一 鞘イナシ塗
- 一 鶏目金無垢ニ枚疋
- 一 下緒淺黄紫お交ゼ
- 一 鐔八角厚サ八重

堅ニ寸六分横ニ寸四分
 八筋透アリ八筋共ニ銅
 ニテ埋メ小カ權ナマリテ
 埋ル





鐘形鑄物

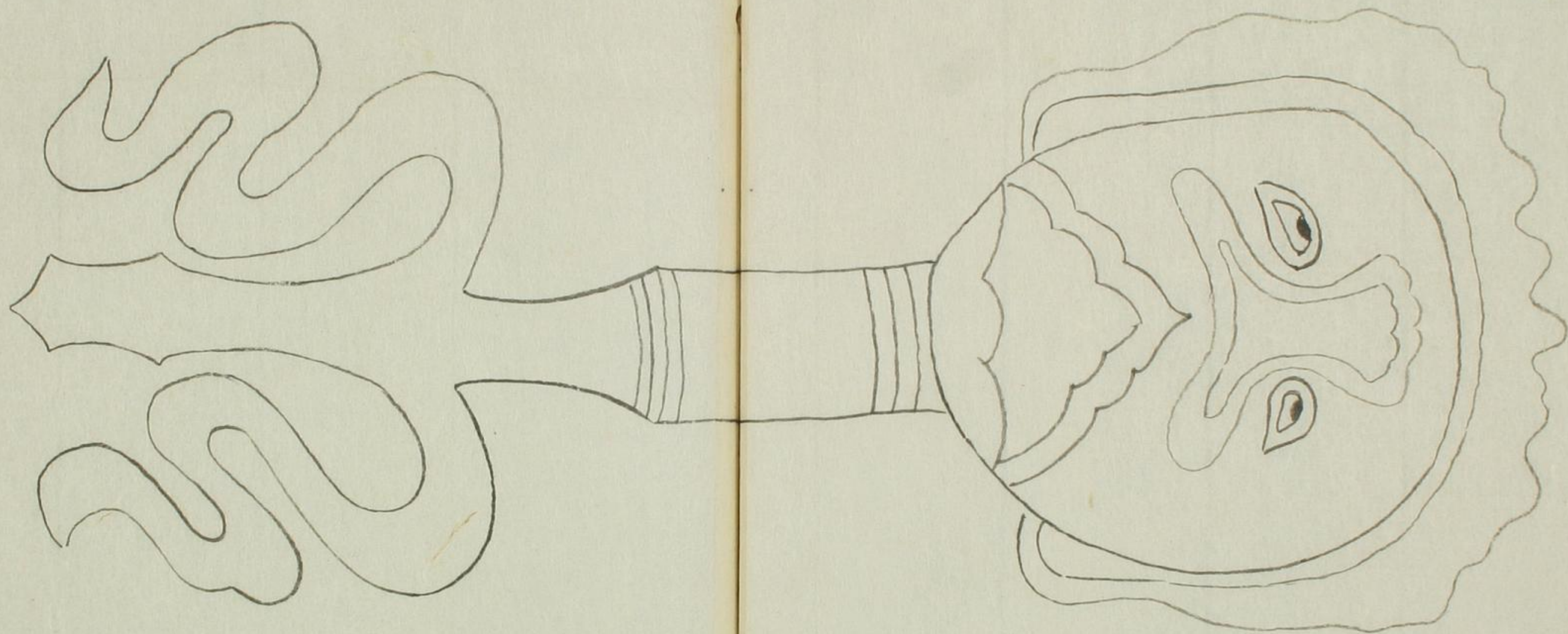
高九尺
先渡四尺

敷
敬馬

和曰外山、丁茶屋、餘慶堂、額を
高し、之の筆、一階中、堂、庭、石、
鐘あり、い、と、平、古、一、尾、張、川、海、中、
津、流、を、く、あ、上、た、あ、く、と、か、せ、各、
一、説、に、疑、お、ど、く、と、く、し、中、文、政、の
始、一、免、皇、庭、洋、見、の、お、く、身、の、案、
海、交、飛、申、の、圖、一、く、ま、く、ま、く、

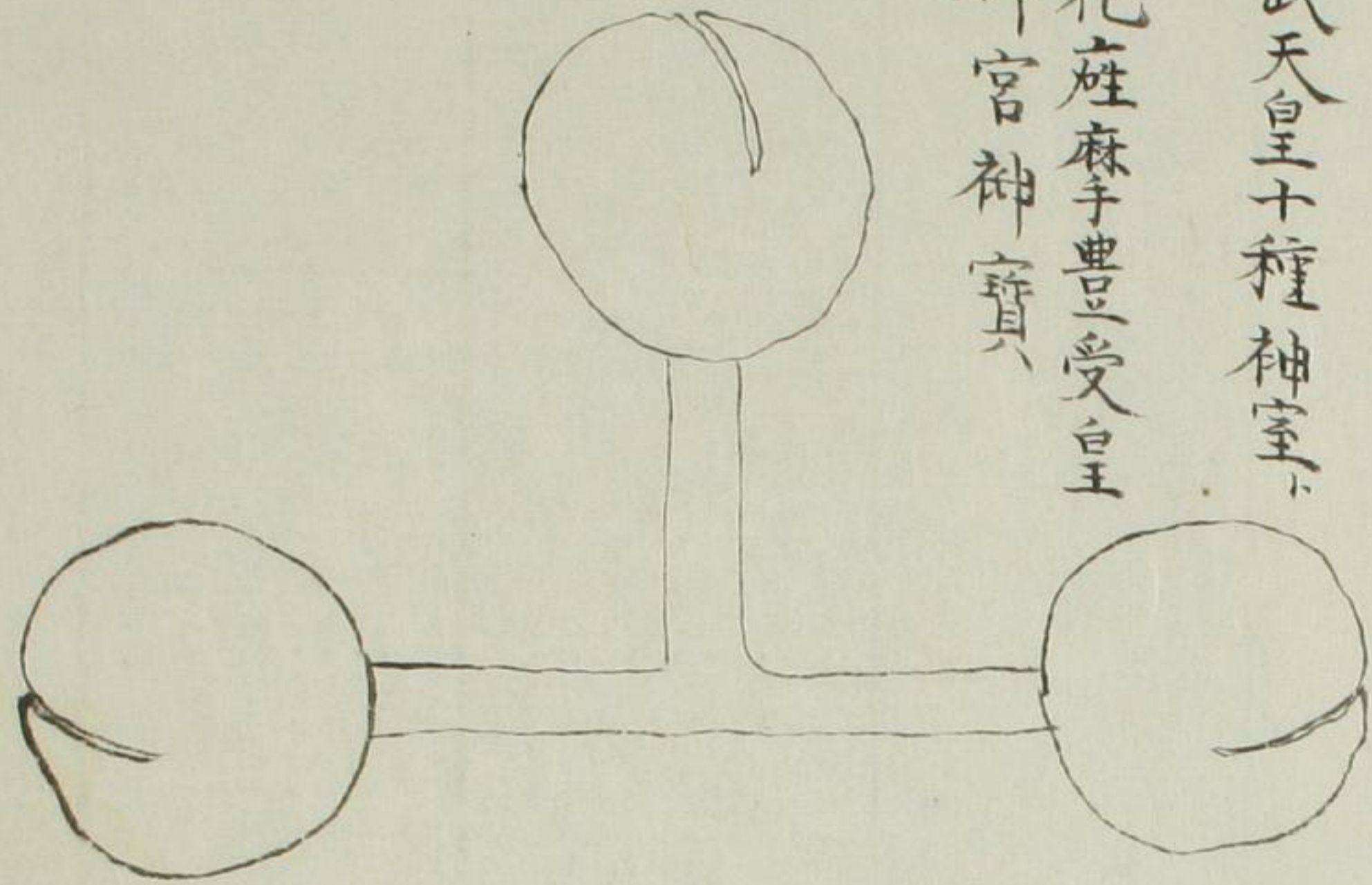
驛路鈴 鹿島正等寺

享保二十一年辰年從
公儀驛路鈴所、四尋、處、鹿島
神、兼、四、竹、相、く、く、一、後、圖、く、く、
流、く、く、の、あ、く、く、流、く、く、
流、く、く、の、あ、く、く、く、く、



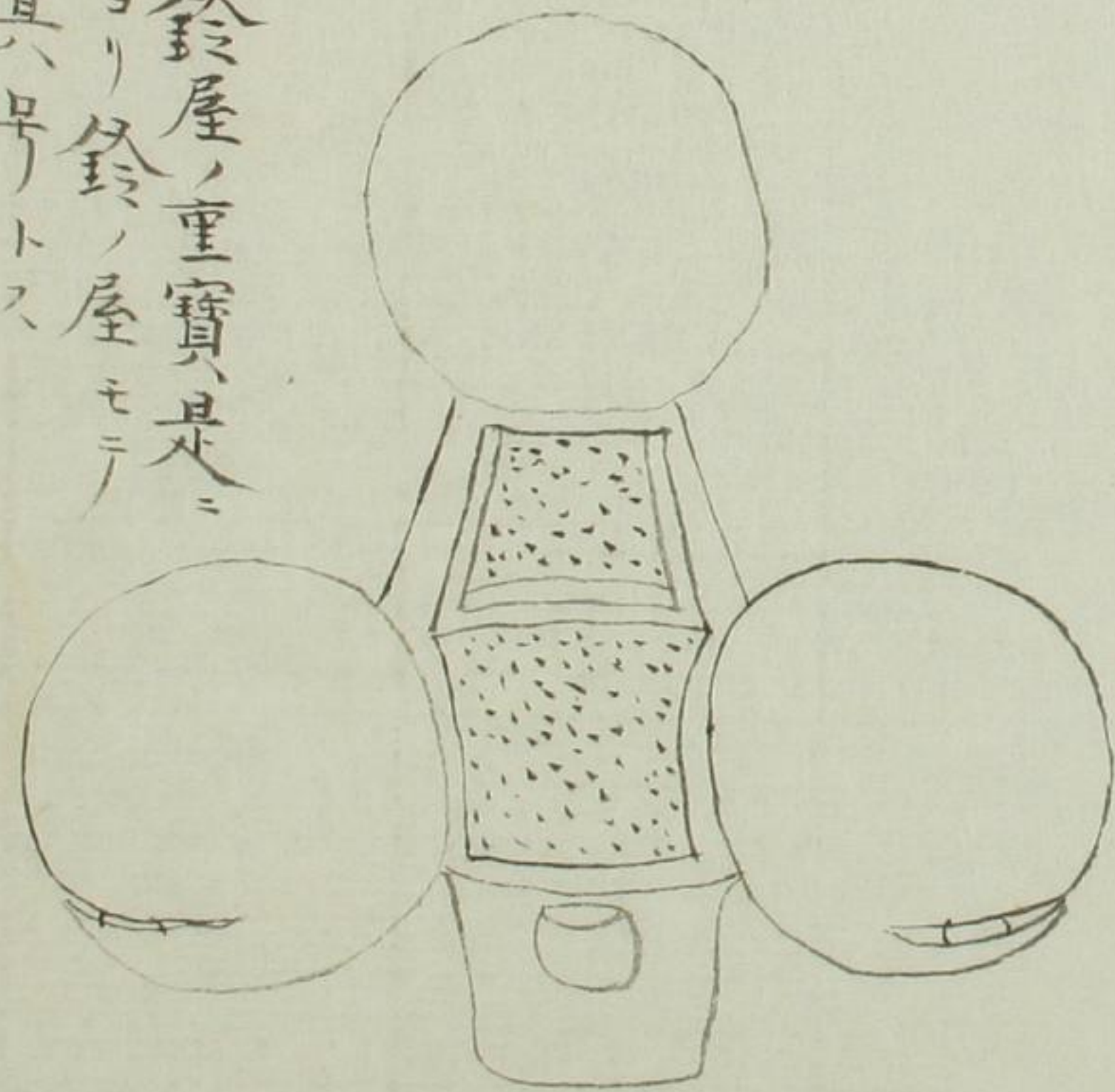
比禮鈴

神武天皇十種神室
之
浪花麻手豊受皇
太神宮神寶



五十鈴宮之境内山中ヨリ堀出ス
安永末蓬萊大夫荒木田尚賢
之許ヨリ本居翁ノ送ル

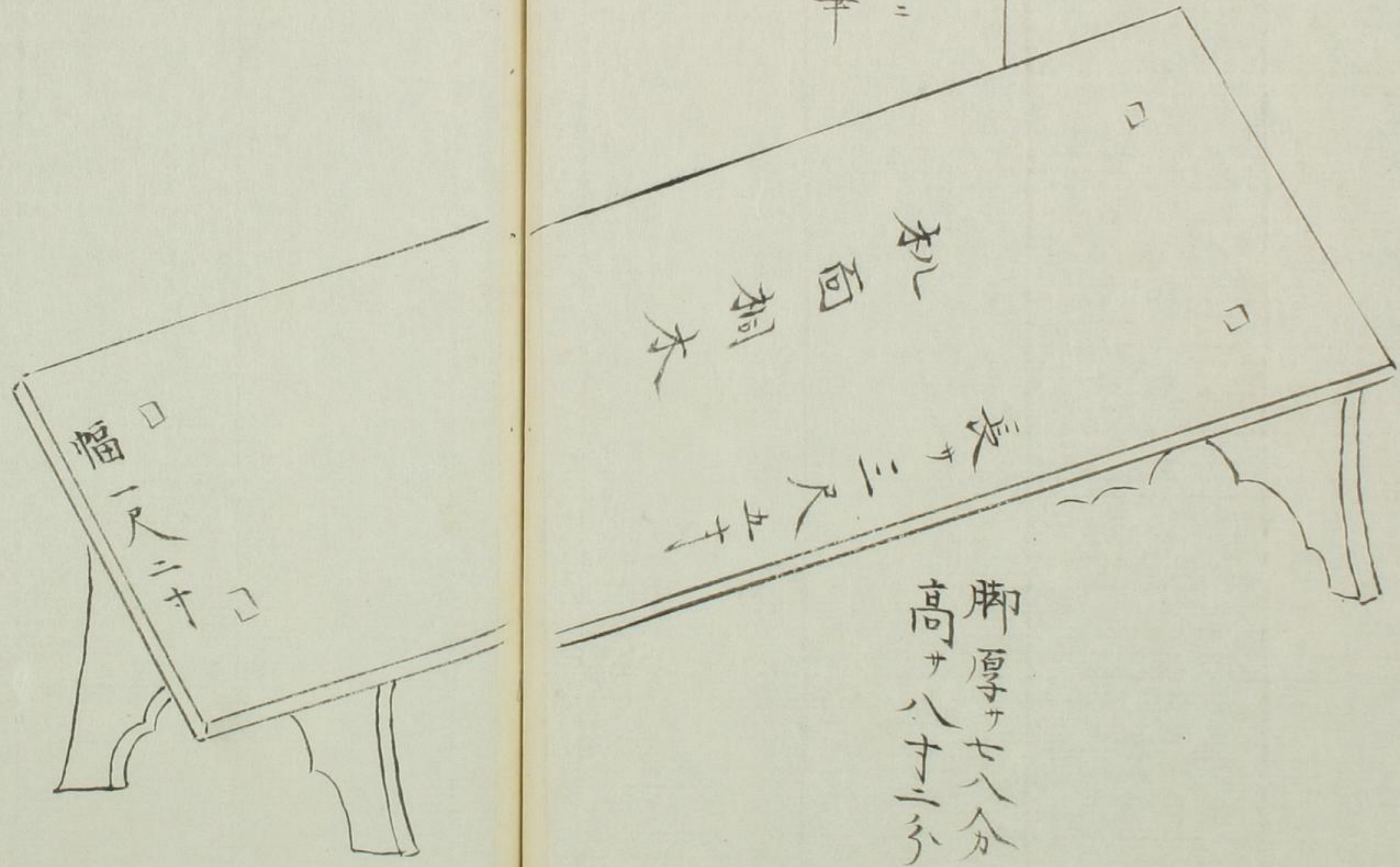
鈴屋ノ重寶是ニ
ヨリ鈴ノ屋モテ
其号トス



久安古机之圖

此古机今ニ身田専門公ノ
藏トナル庭田家今ニ絶ス

此所ノ裏ニ
久安ト云事
彫テアリ



久安二年
寅丙
六月十七日

洞津庭田生安藏

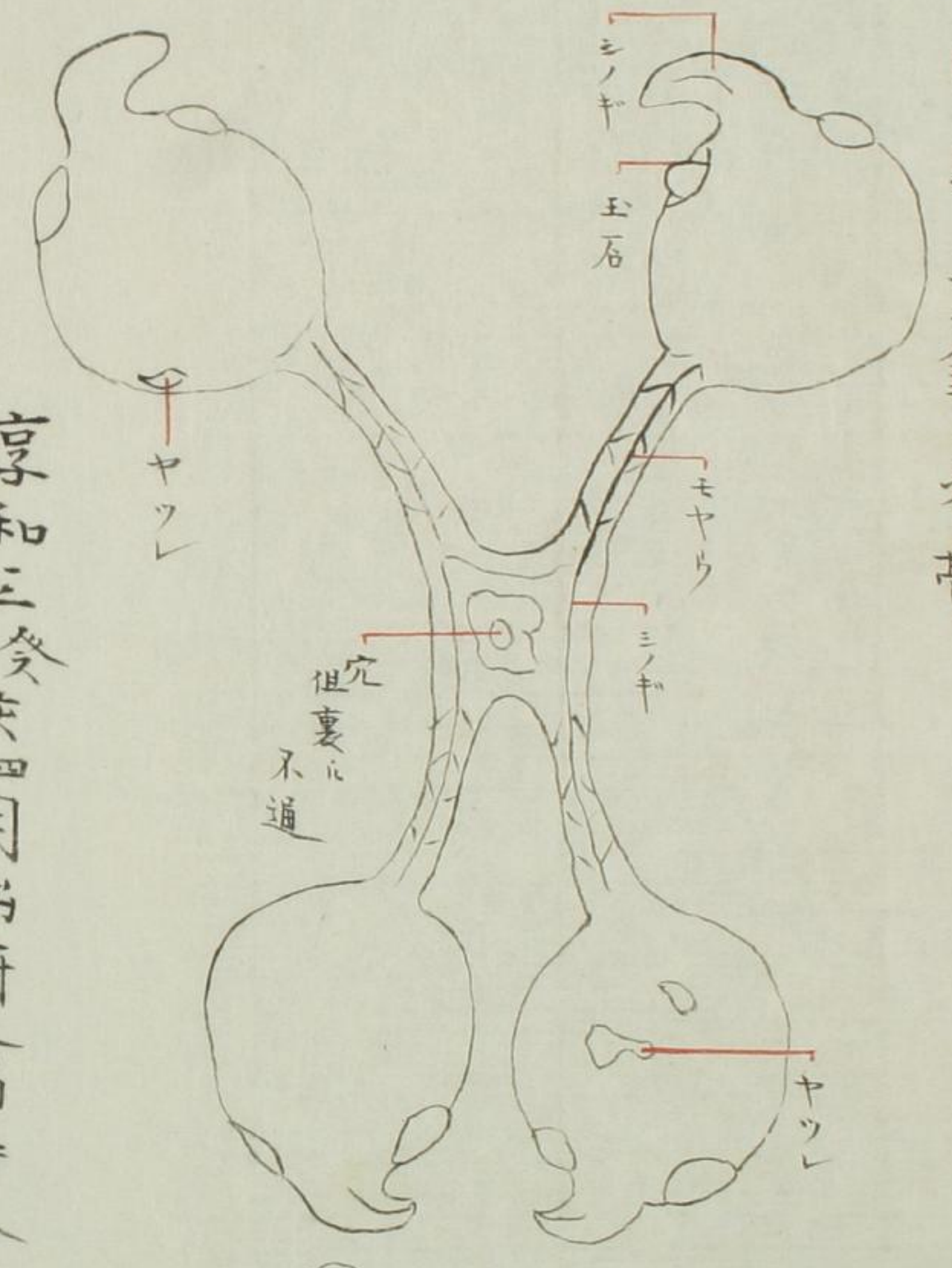
自久安二年至今茲寬政五年歷
凡六百四十八年

虫穴

古鈴 阿川義廣藏 筑州テ手ニ入由

安征考 筑州テ手ニ入且ツ鈴ノ内ニ玉杯
古 殘アル様子 予鈴川迎テ極出ス
 所ノ古神鈴ヲニカ鈴器アリ

大サ圖ノ通リ青錆ヲ以シ帶



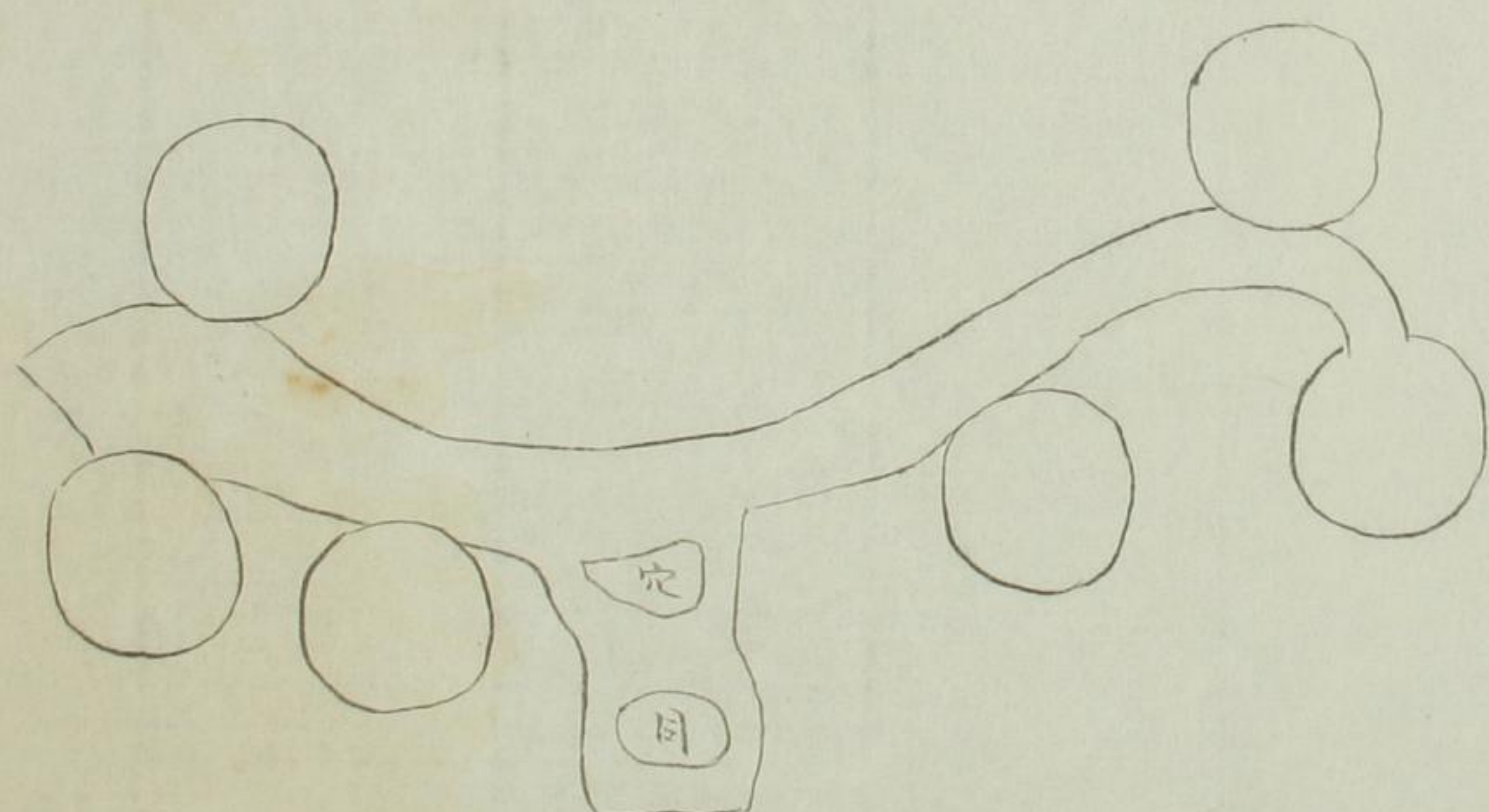
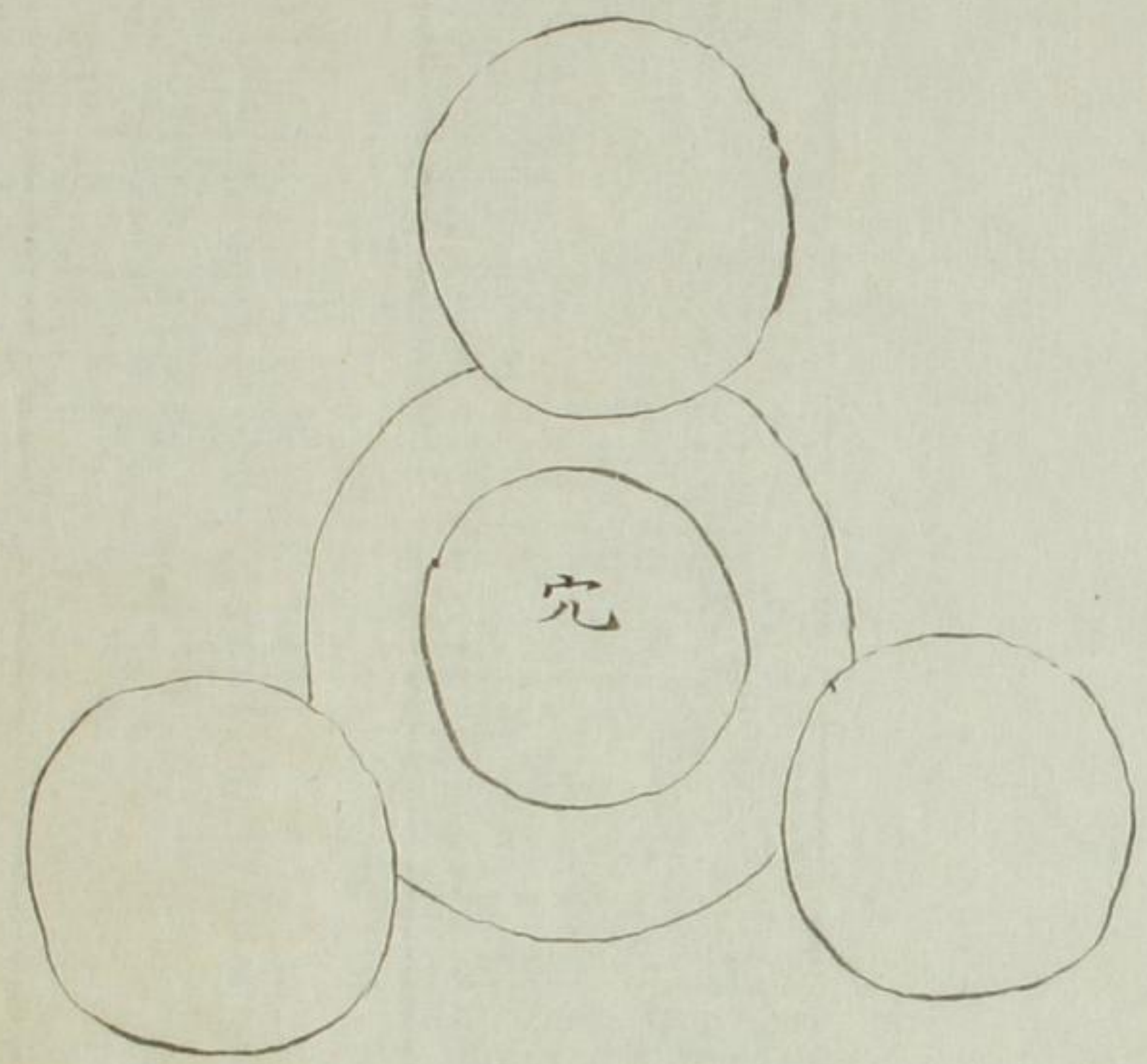
享和三々 文四月出府之節持参写

隱岐之國造所藏之古銅印

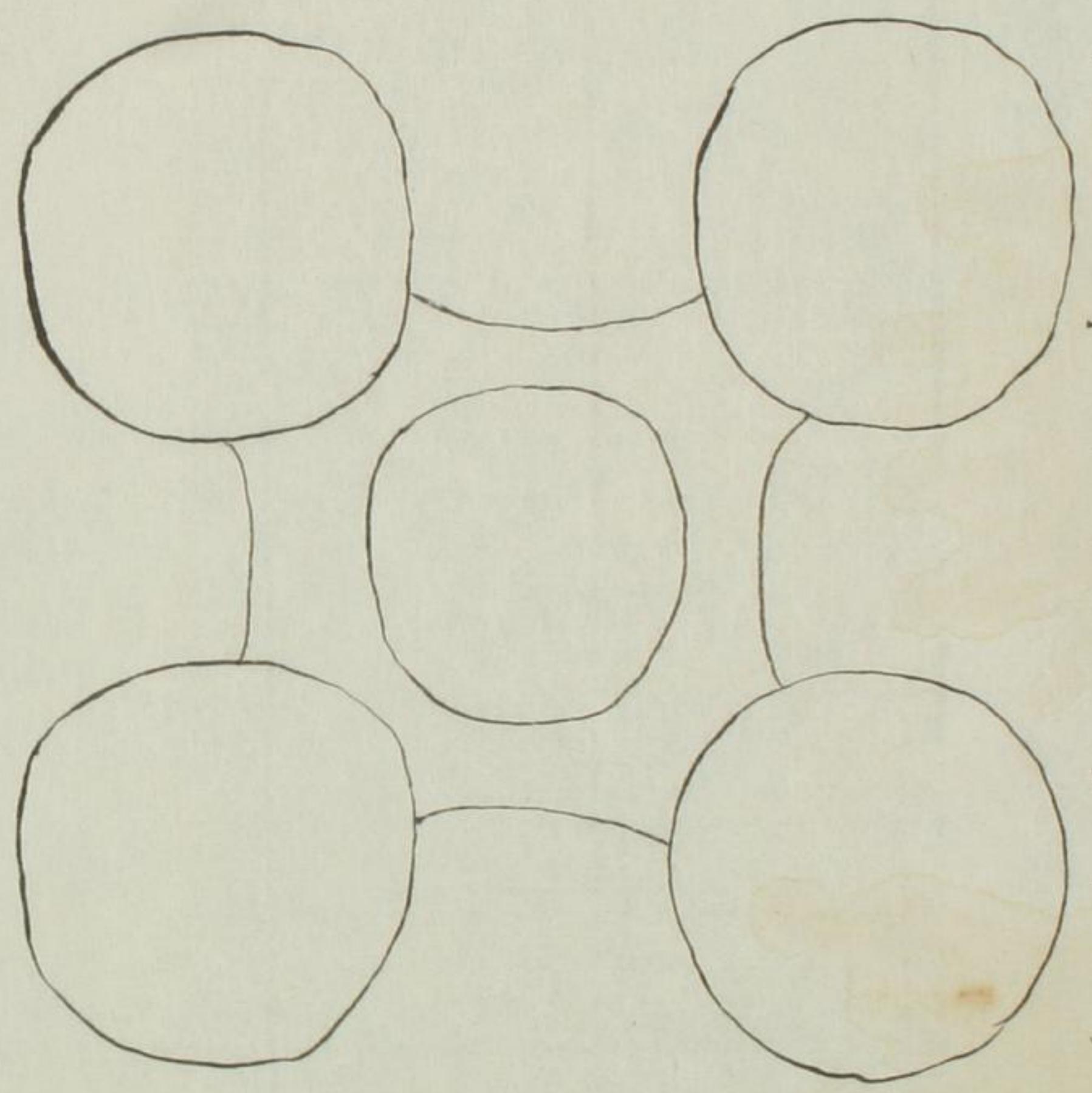
寛政二酉年 天子遷幸之時驛路之鈴御入用古物禁中ニモ無ク
 隱岐國造ノ家ニ大臣ヨリ所持ノ名鈴アリ表向テ國造ヲ召シ鈴御取寄可
 鑄サセラレシカト不出來故國造ノ鈴ヲ直ニ御用之其後ニッ字鑄セシメ
 本鈴ハ國造家ニ返シ玉ト當戌年持歸ル右國造ハ神孫也
 橋氏懇意ノ人此家傳來之古銅印アリ甚秘物ナレバ今度家ノ面目ニ可
 成ヤト持上リ則橋氏一覽無理ニ所望ニテ席上呈上押シテ則予ニ惠マル
 文字ニッ京中ニテ讀ム藤ノ叔藏一人唐物ト之由橋氏物詔アリ



隱岐國嶋後周吉郡
 惣社傳來鑄印之圖
 自阿義廣借写



河内國錦部郡駒ヶ谷金剛寺什物往古ノ古鈴三品ア津邑
 井敬義
 本形ヲ以テ摸ミ来ル大ナ圖ノ如シ何レモ古銅ノ由



虫穴

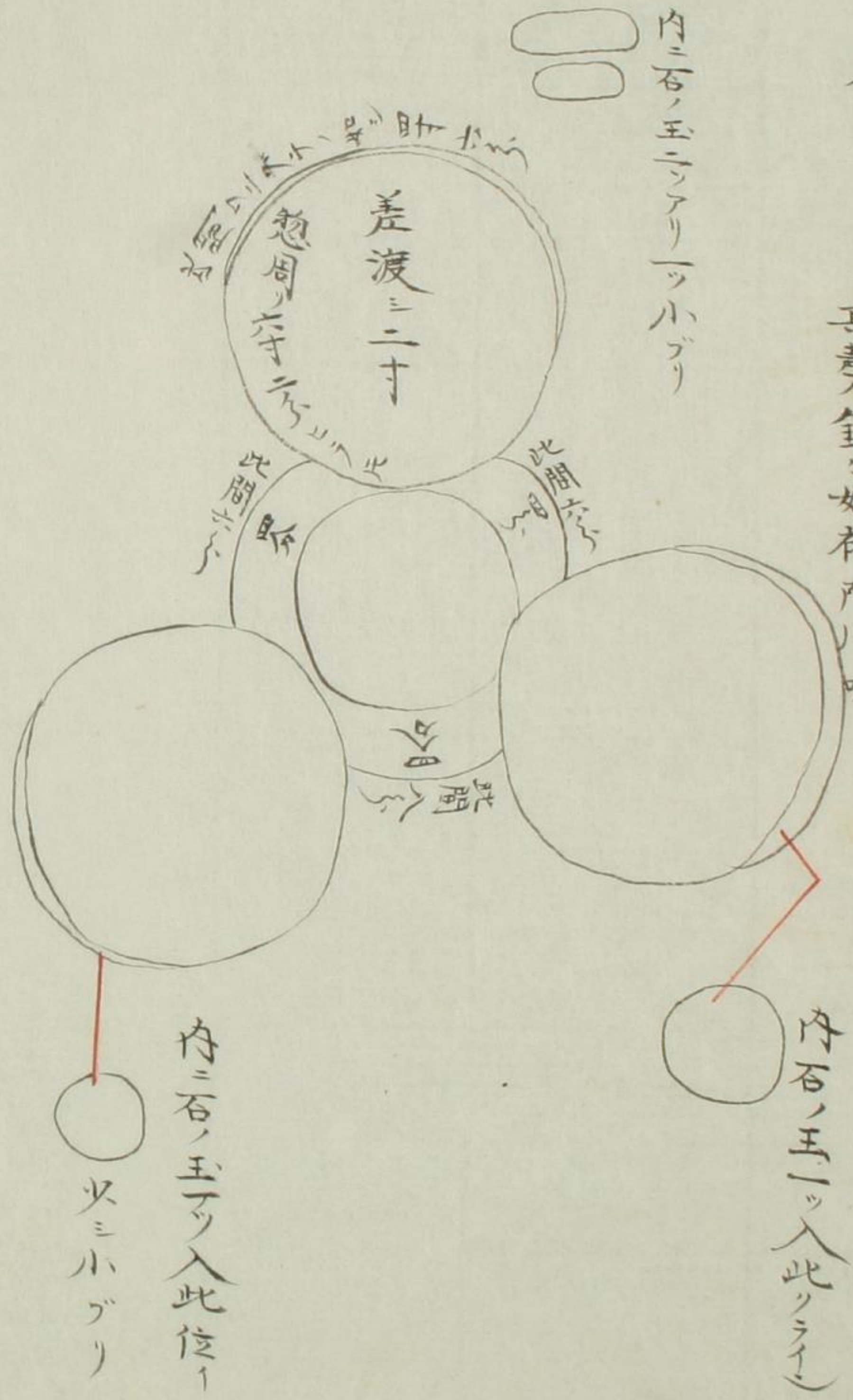
古鈴集

牛門 御歩士組

木島徳左エ門政親
文庫ヨリ阿川義廣
寫予又拔萃以下九品政親藏圖也

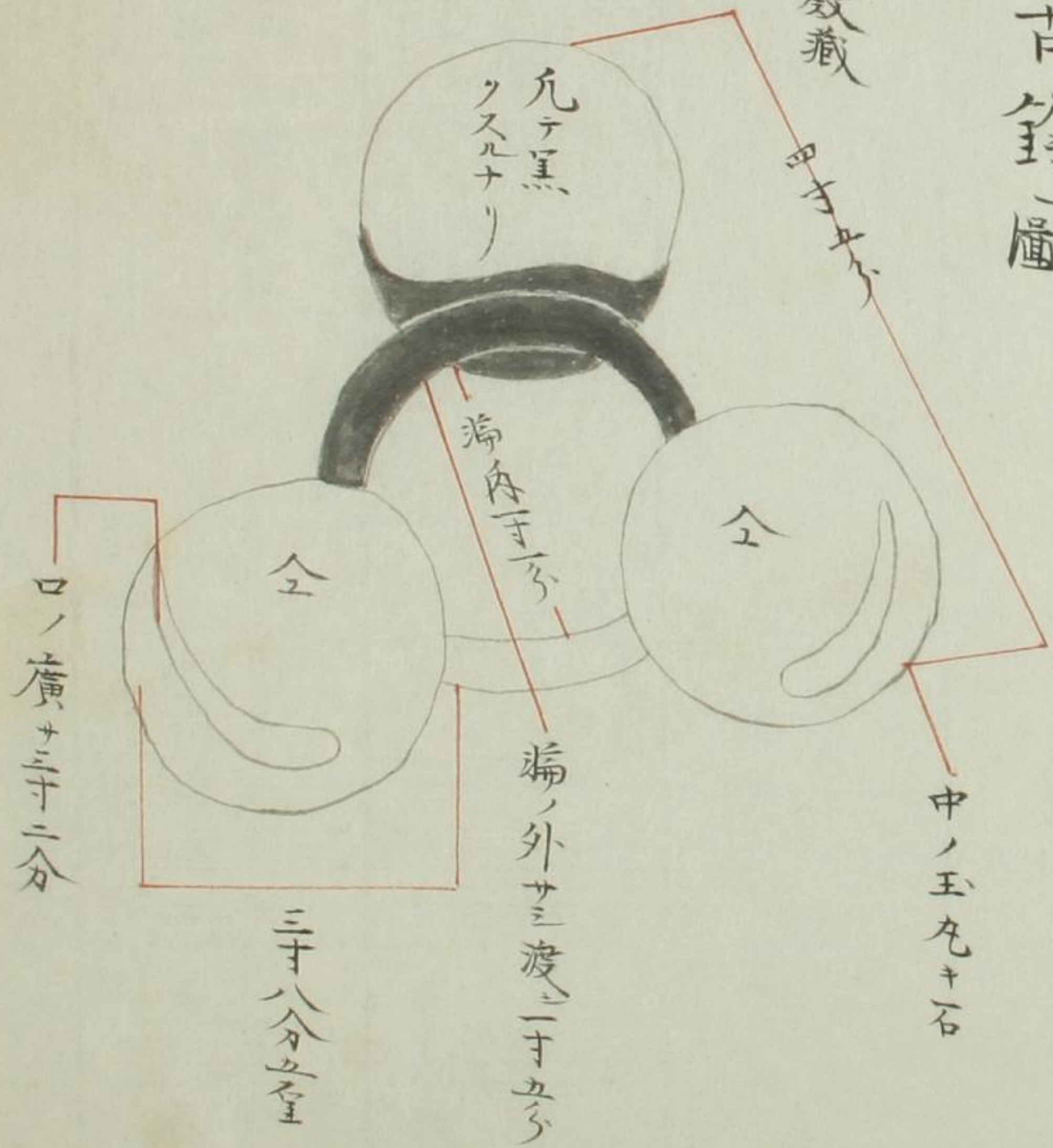
神鈴圖

木島政親所藏實古物
其馨鏗々如神阿川咄



但馬國銀山ヨリ掘出ノ所之
銅古鈴圖

御代官
内方鉄斎殿藏

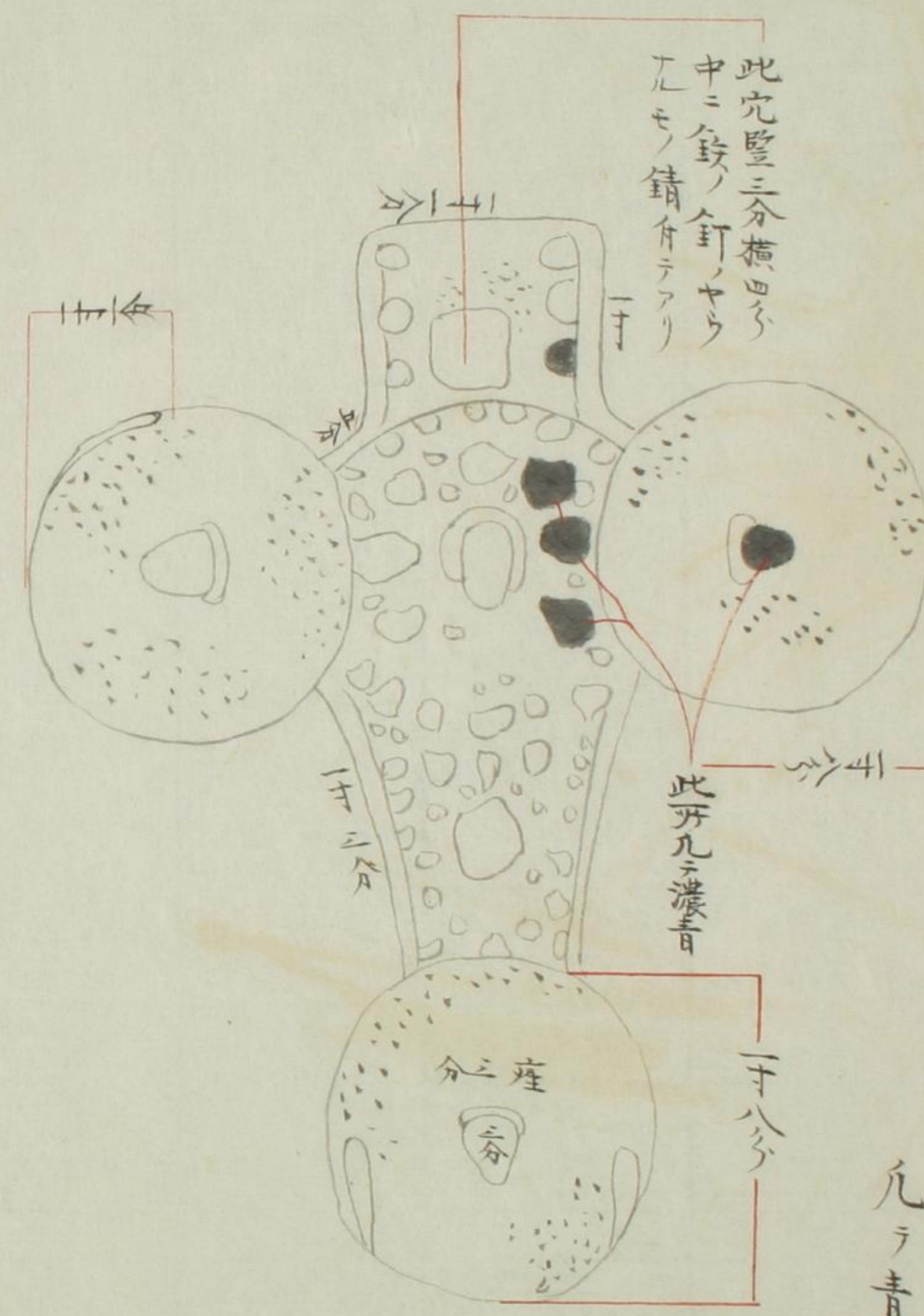
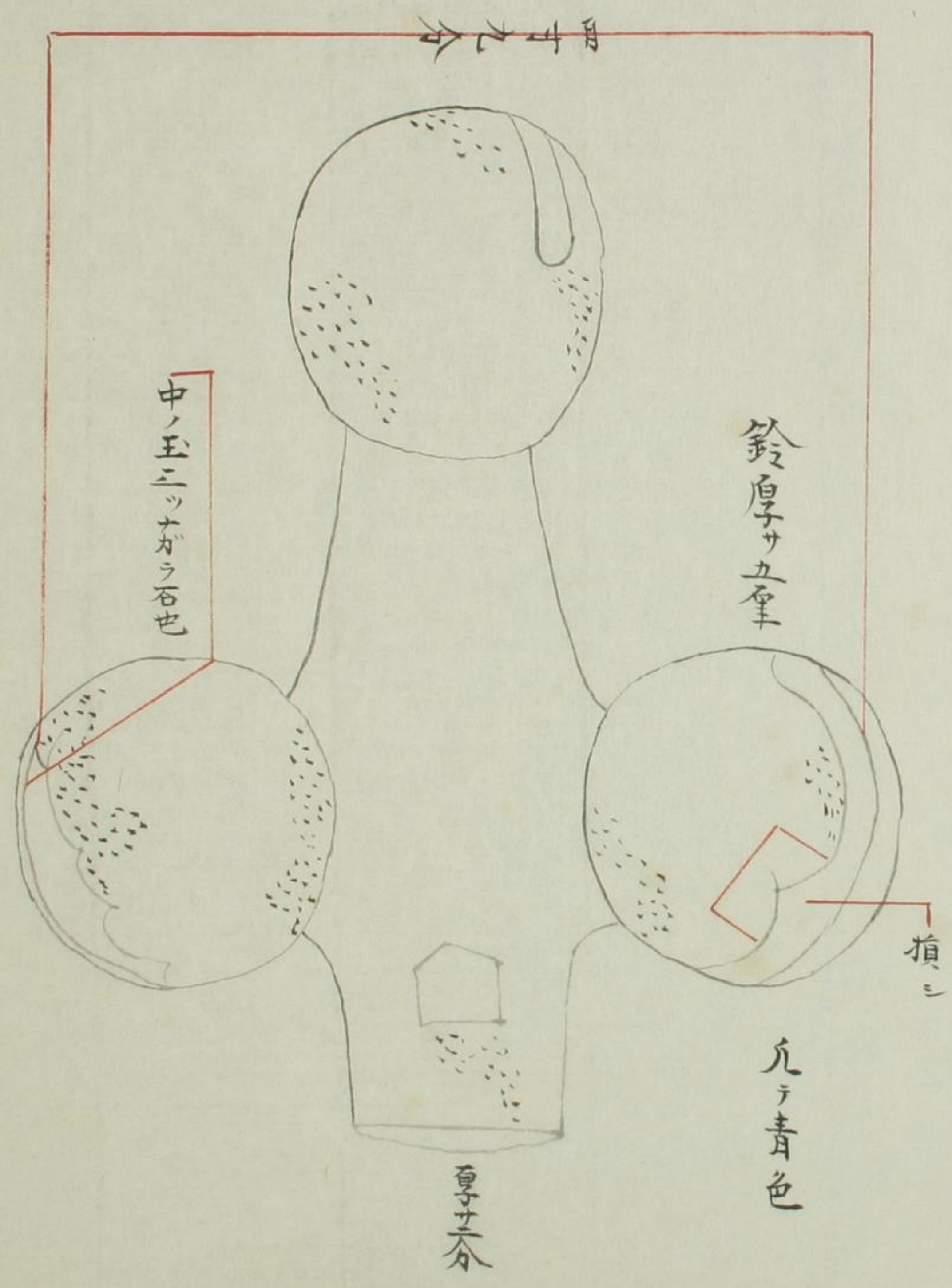


三寸八分五厘

口ノ廣サニ寸二分

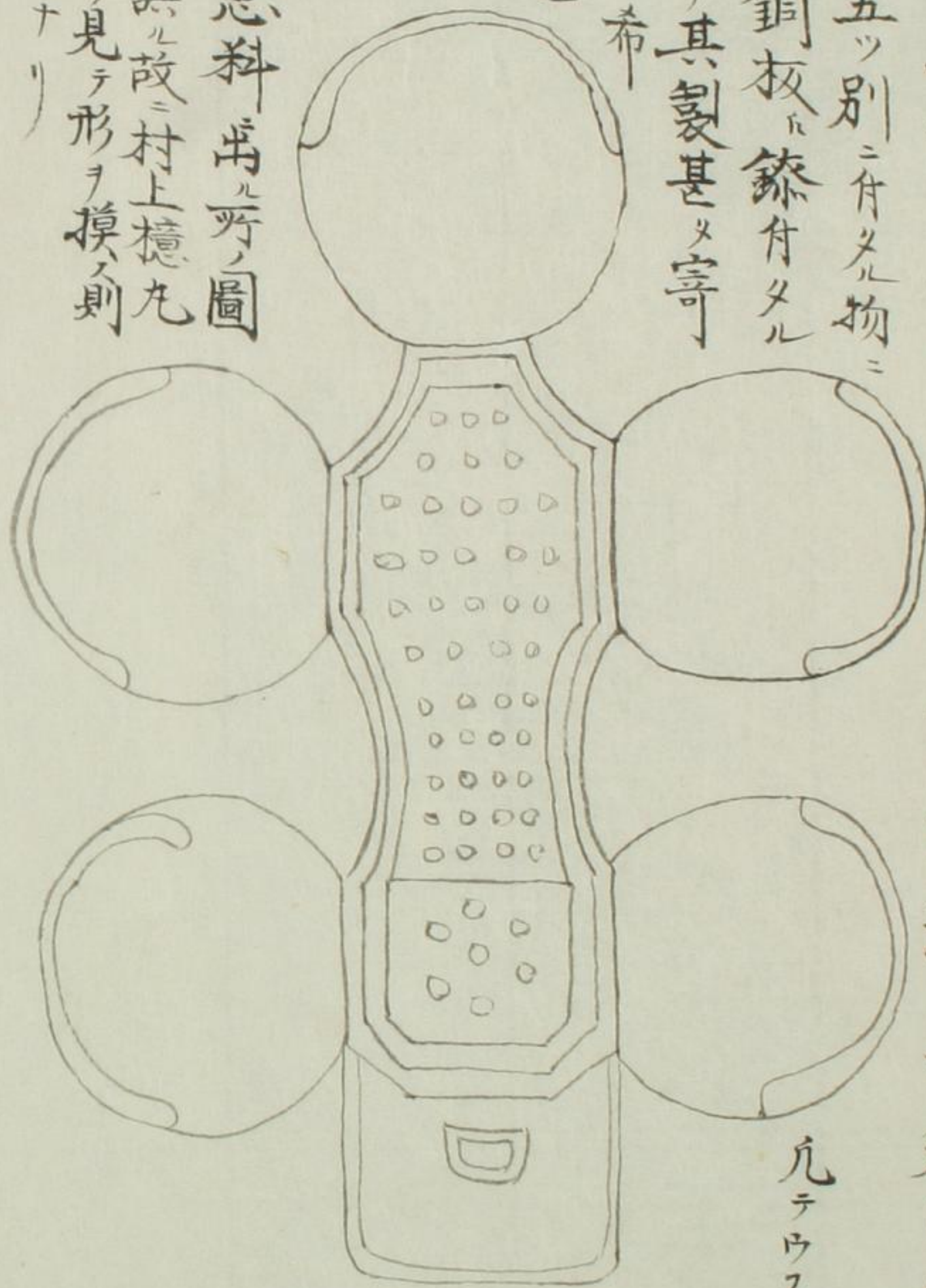
漏ノ外サミ渡ニ寸五分

中ノ玉丸キ石



武州崎玉郡忍領清水村 百姓堀出ス所ノ板鈴圖
凡テ青色

房總志科卷之一上總國周准郡貞元村神將寺貞元親玉ノ御廟アリ先年土民掘出セシ什器アリ其圖ナリ寺僧呼テ板銘ト云其器古撲銅色粹美ニシテ食ハス裏ノ方ハ漫ナリ下ノ元ハ目釘穴ニヤ鈴五ツ別ニ付タル物ニアラス銅板ハ銘付タルモノナリ其製甚メ奇異實ニ希世ノ物也



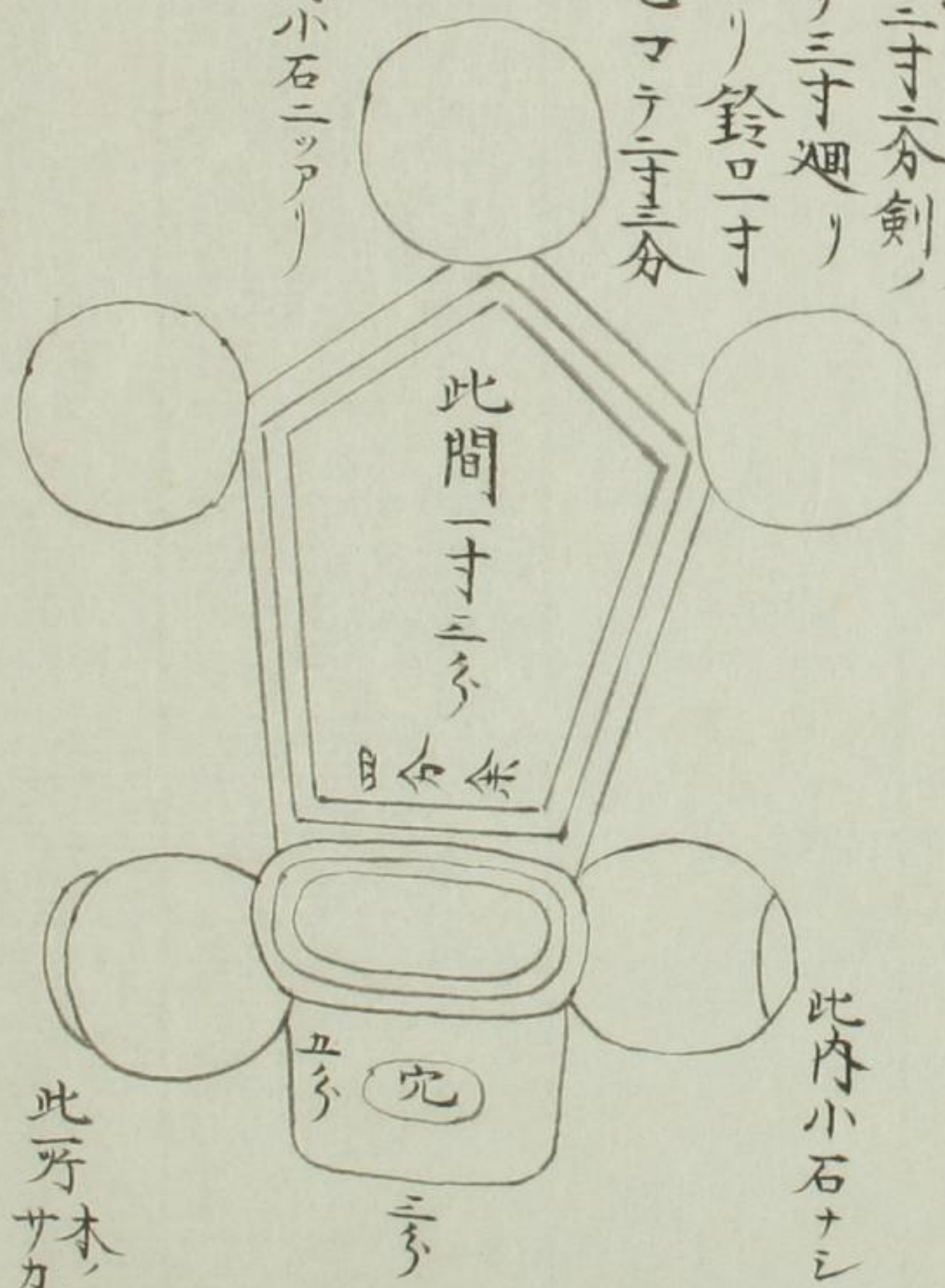
凡テウスズミ

房總志科 禹ノ野ノ圖

甚メ誤ル故ニ村上憶丸正物ヲ見テ形ヲ摸ル則此圖ナリ

下總國行徳・壽照寺所藏 斤量五十二錢目録

右驛鈴ハ唐銅ノ如クニシテ甚メ古ク惣長サ三寸五分劍ノ裏ノ板鈴ノ大サ三寸廻リ内ニ小石一ツ宛アリ鈴口寸ハ五分劍先ヨリ元マテ五分



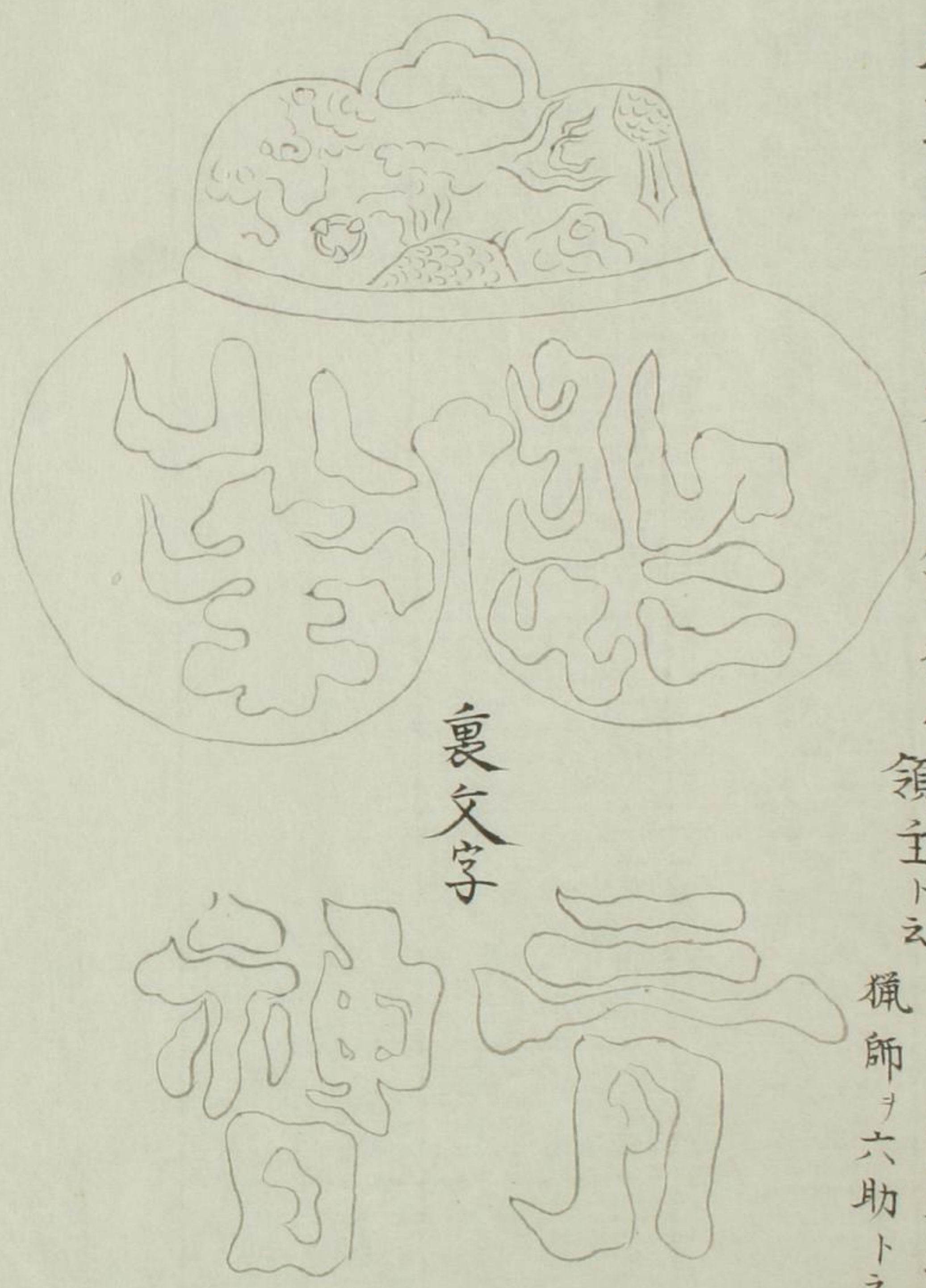
此内小石ニツアリ

此内小石ナシ

此野本マ、サカケアリ

劍ノ形ト輪ノ形ノ外フテ通リシノギノ形シノキノ高サ一分ヨ劍先一寸ヒラク

肥前國獵師於平戸浦得之
天明八年正月廿三日事也今有
領主ト云
獵師ヲ六助ト云

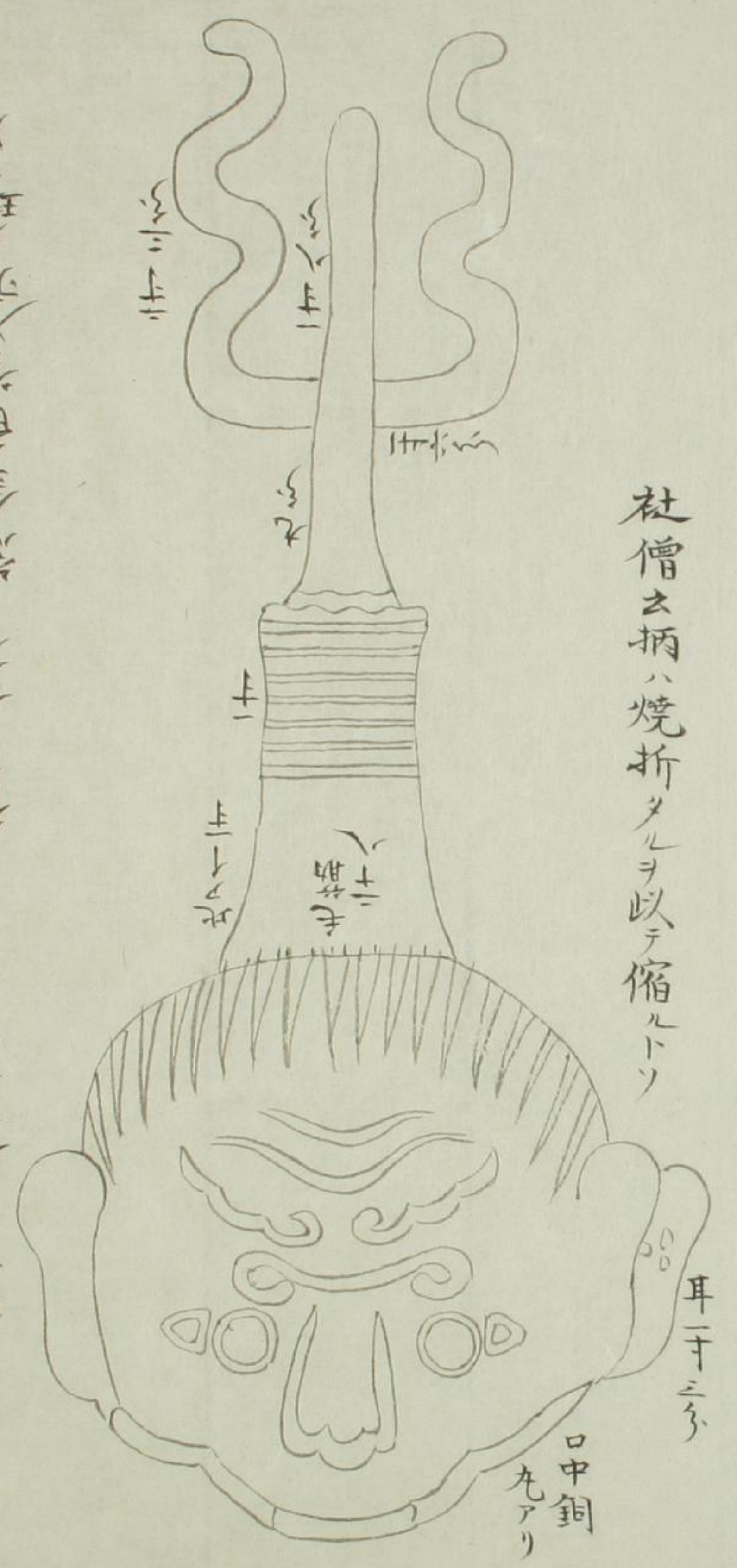


裏文字

下總國葛錫郡吾嬬社神寶

驛鈴真形法華密寺現住如空法印

社僧之柄ハ燒折タルヲ以テ縮ルトソ



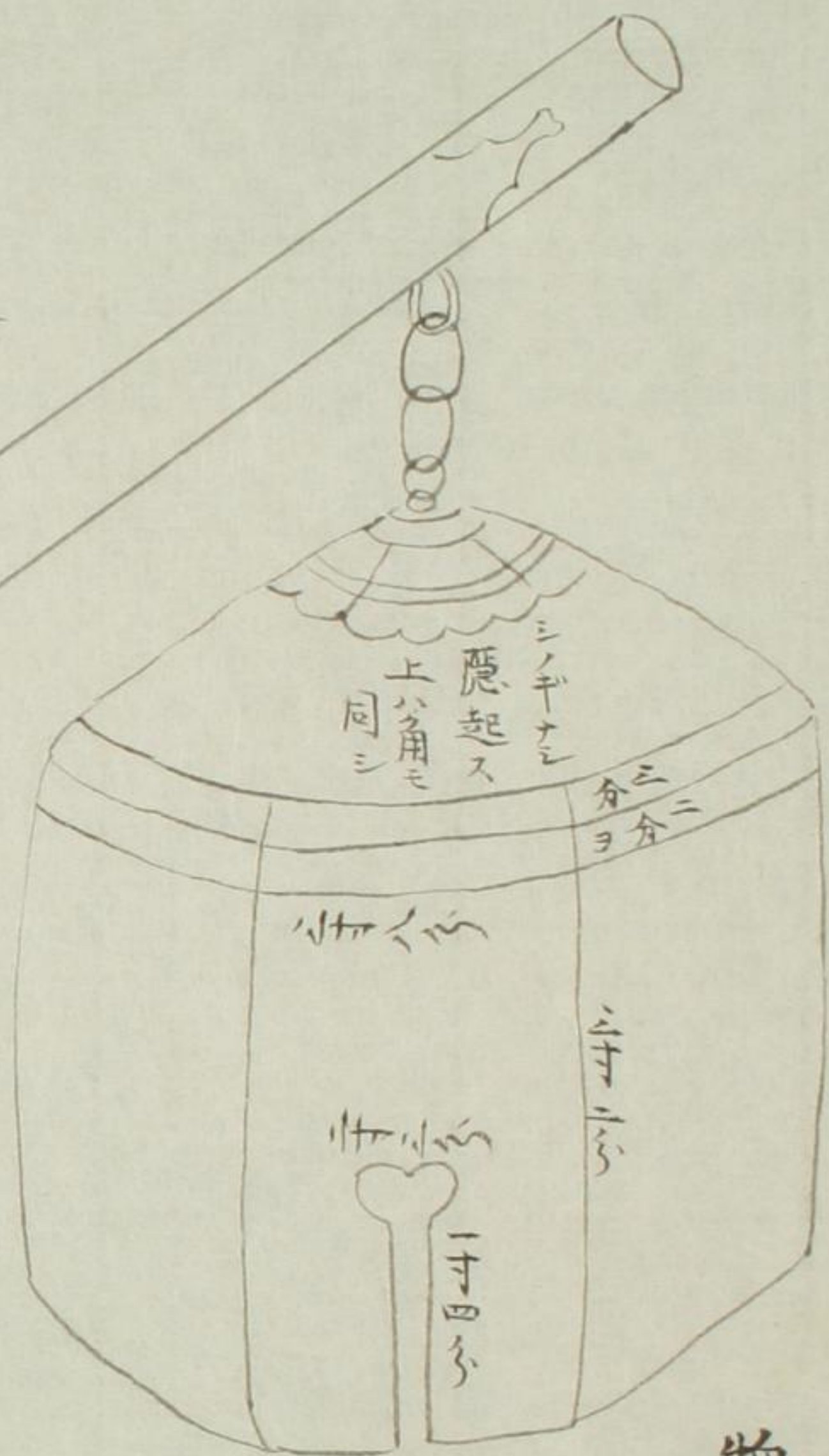
耳二十ニ分

口中銅丸アリ

班ノ末ノ金鐘ノ形ノ上ヨリ
 録
此

古物鈴圖

此圖之古鈴一口
出雲國ノ人所持ノ
馭路ノ鈴ノ由申傳
ト云々先年携之上京
其節戎人摸其形今以



惣金ノツキ

惣金具全シ

金ノ厚サ一分程

○内ニ此程ノ鉄丸ニツ入

其圖寫之惜哉此鈴宝永

京都大火於旅館焼失ト云々

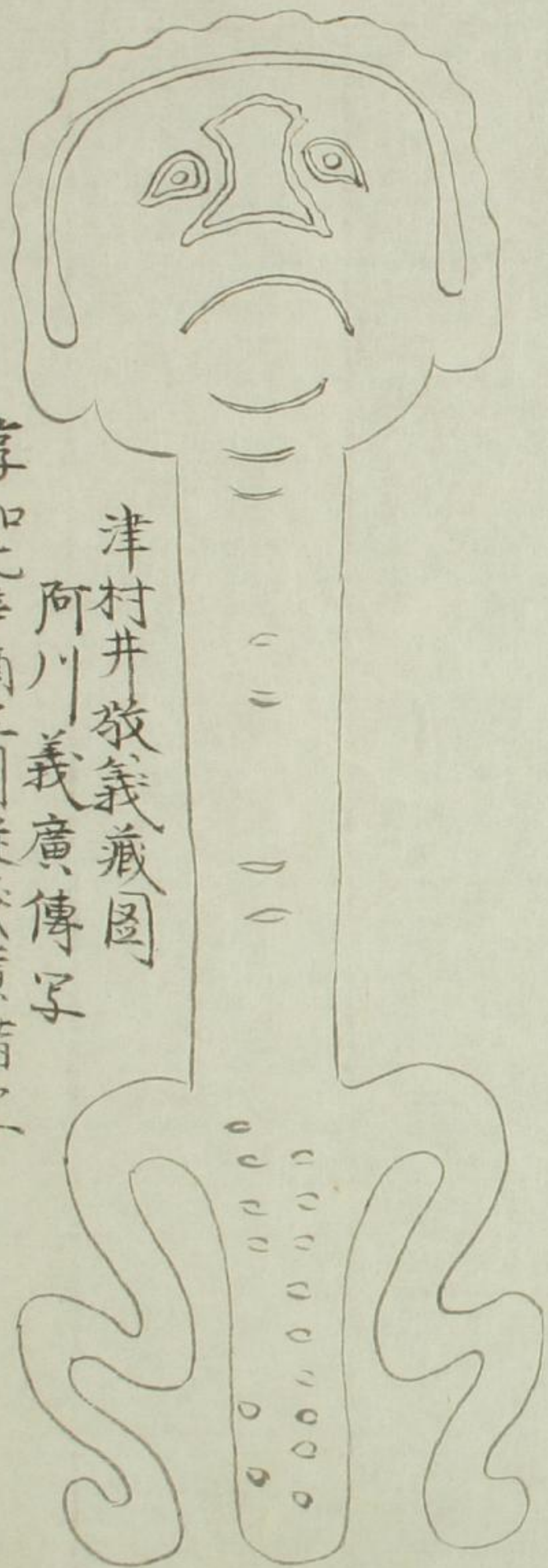
御厨子所預

紀宗直

柄黒塗

長サ壹尺二寸余

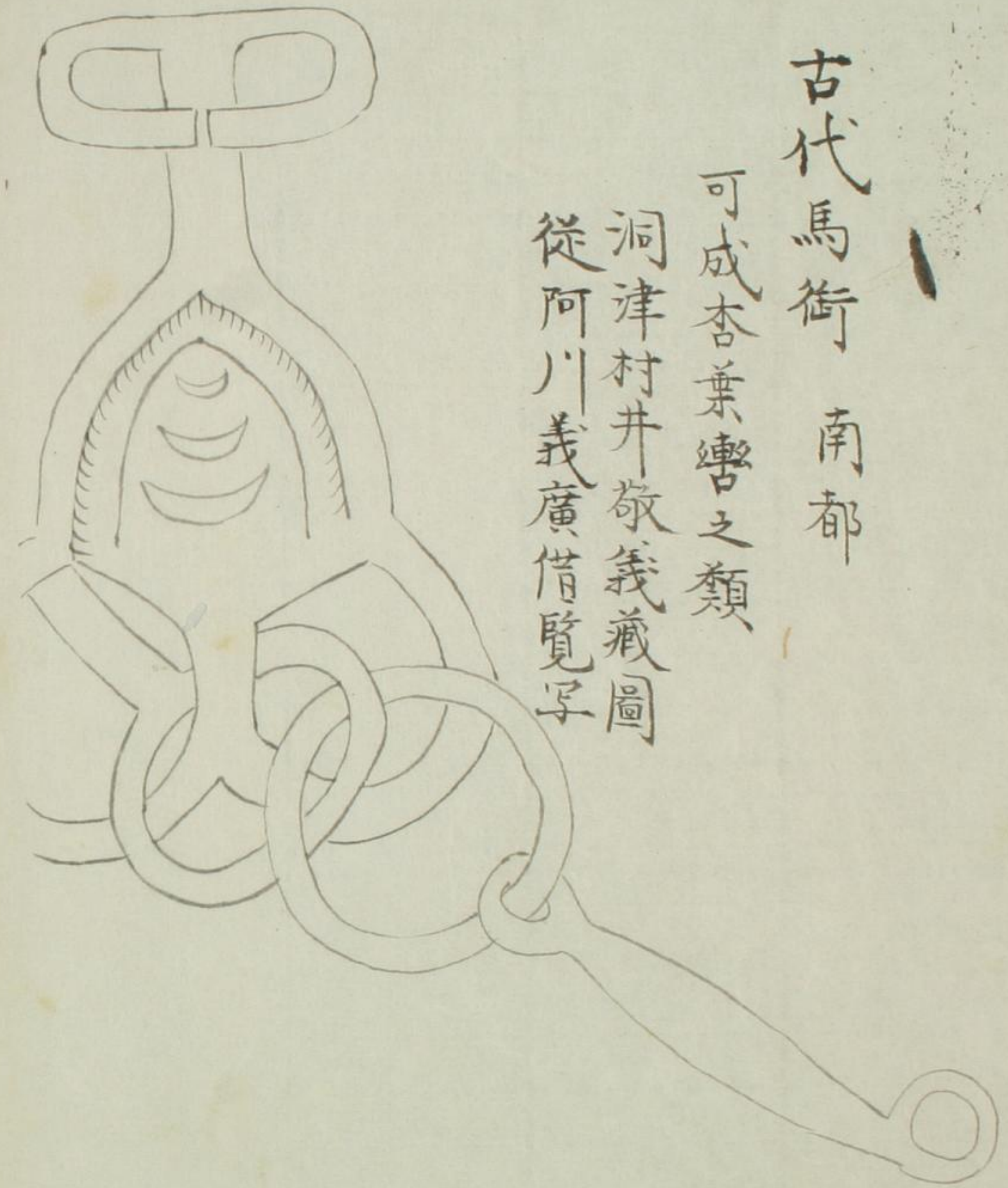
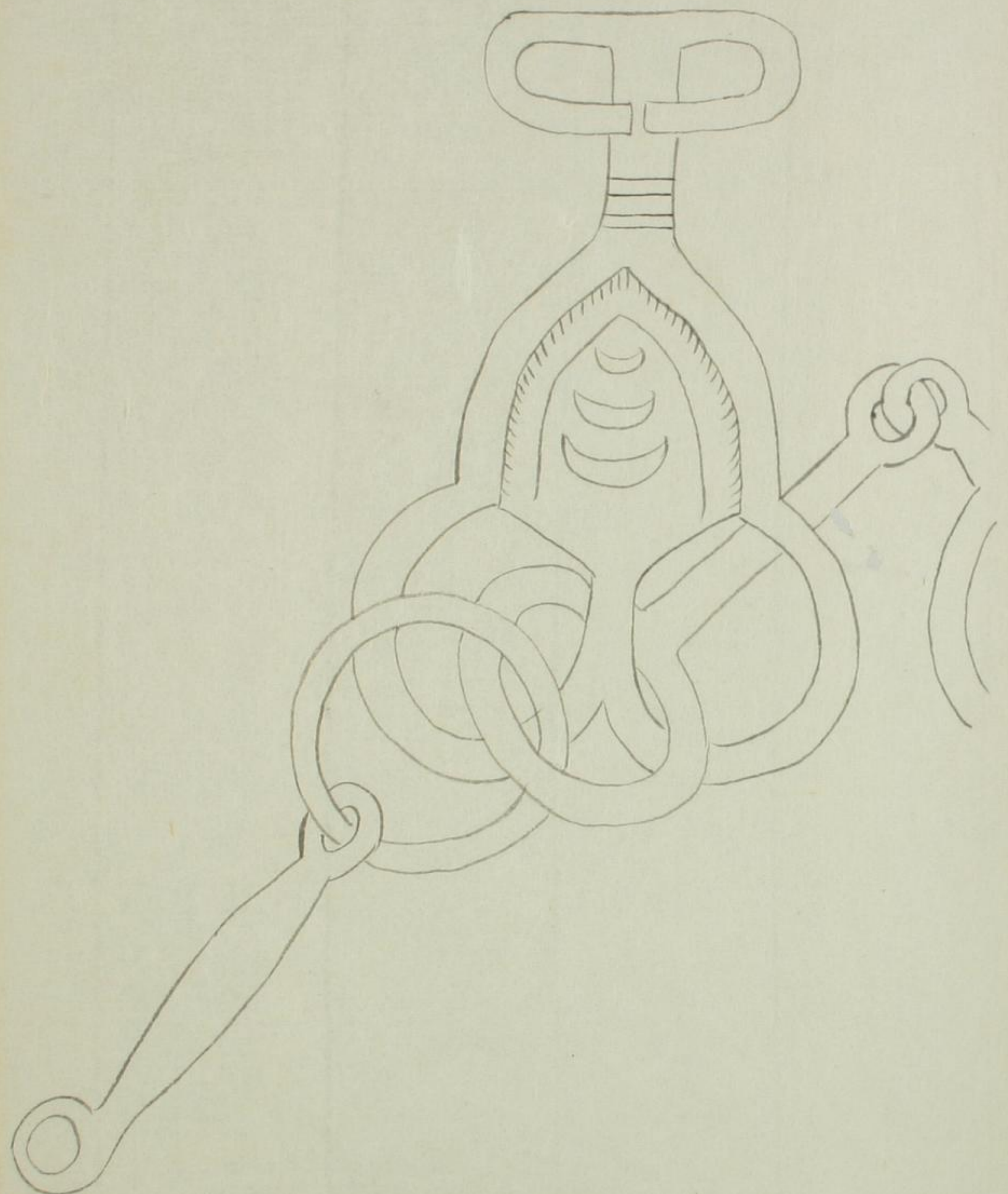
此驛路鈴圖子在備前國丸山曹源寺藏中



津村井敬義藏圖

阿川義廣傳寫

享和元年閏五月從義廣借寫

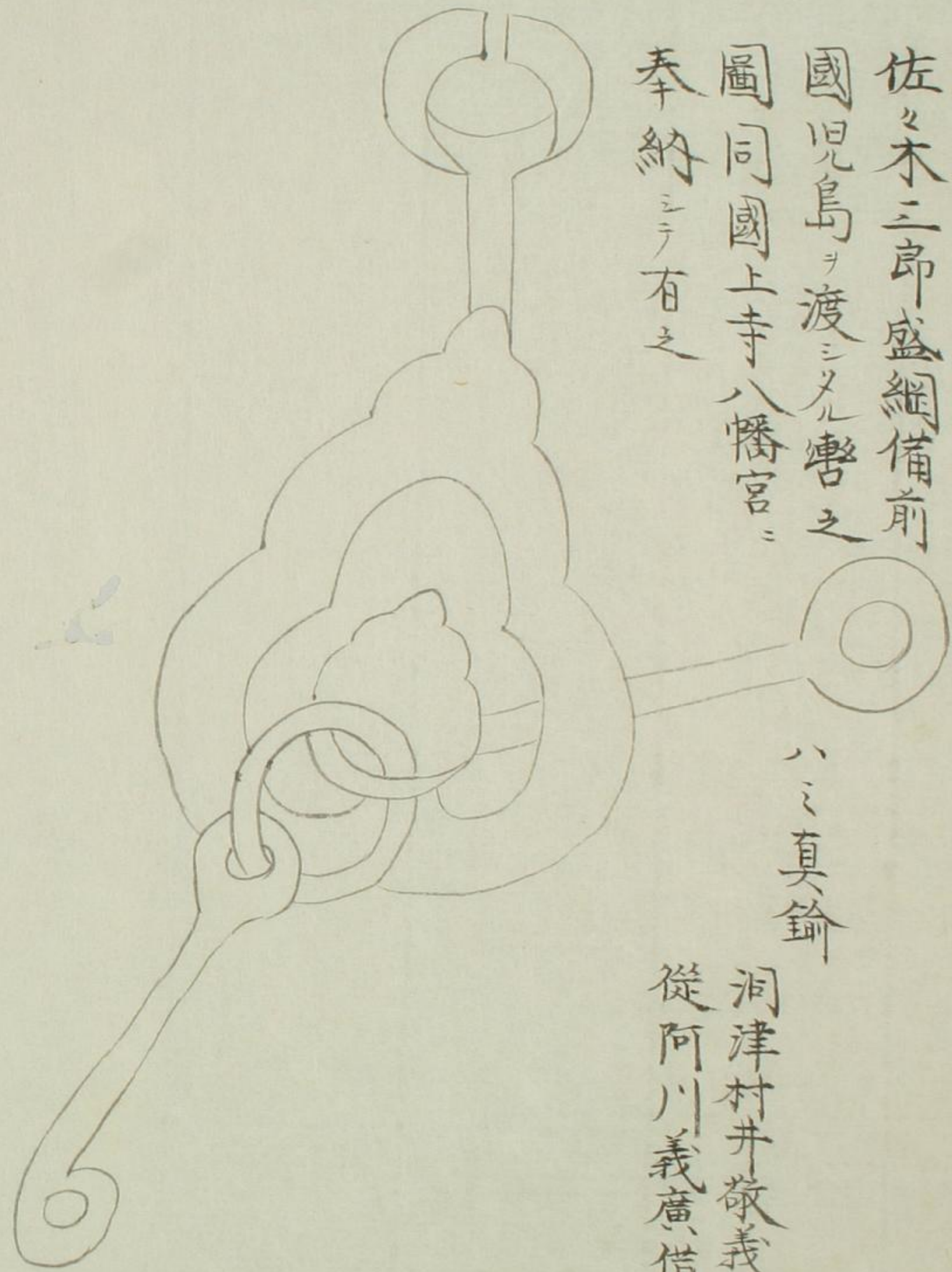


古代馬銜 南都

可成杏葉轡之類

洞津村并敬義藏圖
從阿川義廣借覽字

佐々木三郎盛綱備前
 國児島ヲ渡シテ響之
 圖同國上寺八幡宮
 奉納シテ有之



ハミ真鍮

洞津村井敬義藏
 從阿川義廣借写

桂林漫録抜

寛政土庚申六月癸亥

官醫桂川家著撰藏板

古甲冑

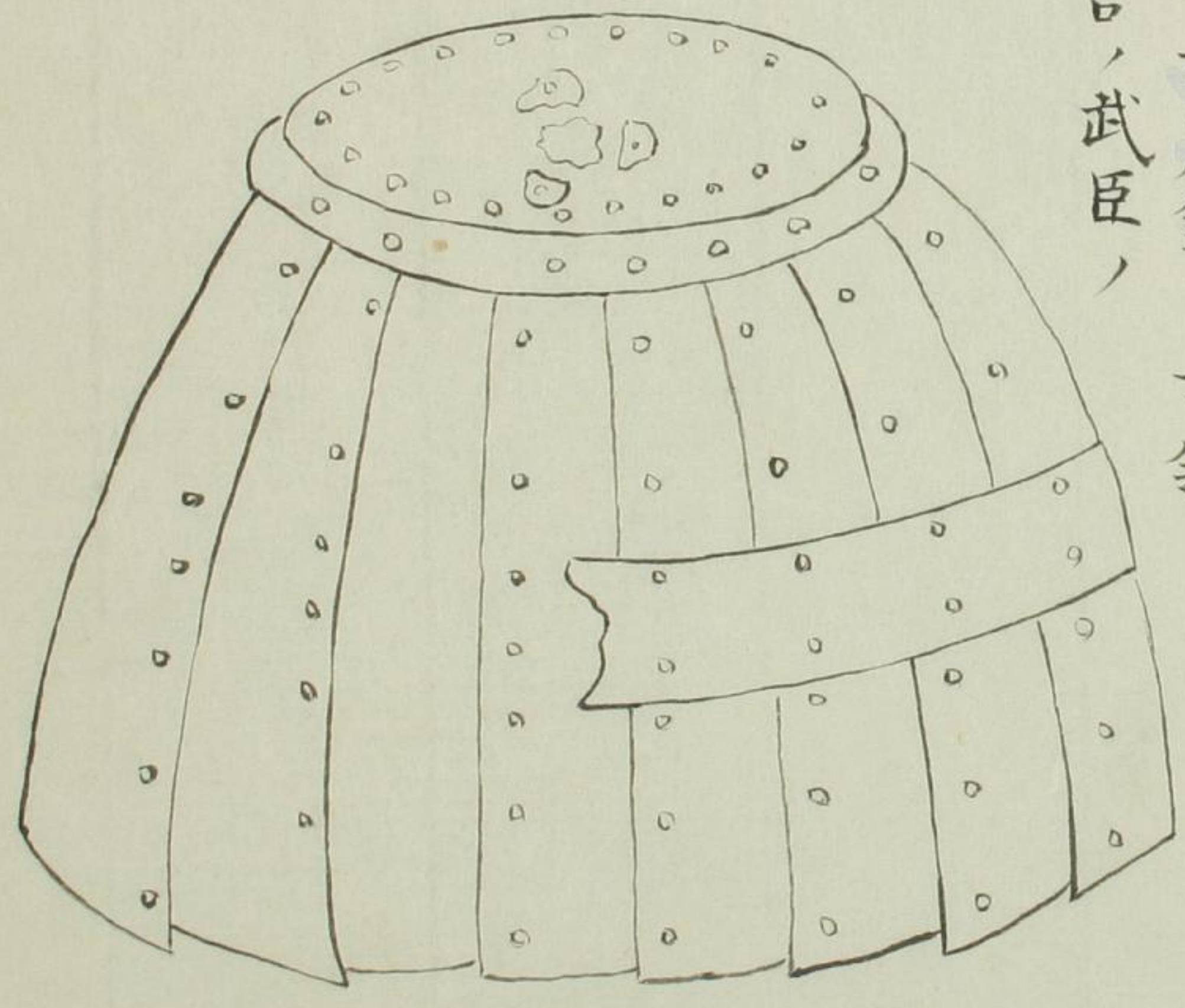
寛政改元ノ春。日川。諸縣郡。六日市ト云所ノ廂右工門ト云農夫。埭
 田ニ流ヲ引シ爲。溝ヲ堀コト數尺。忽テ一ノ古冢ニ逢フ。穴ハ横サマ
 ニ堀タリ。棺枚已ニ朽タルヤ。一片ノ板ヲ見ズ。穴ノ四邊ノ赤アリ
 シト云ハ。棺ヲ突メル未ノ色ノ残リタルヤ。穴ノ内骸骨ナリ。
 齒一枚。鑑三枚。刀ノ身五把。鉄甲冑一具。玉數顆。俗ニ云
管石ト倅スル 其他遺鉄ノ物。若テヲ獲メリ。鑑ハ博古圖ニ載
ル所ノ。四乳鑑ニシテ。予遺囑シテ。純青翠ノ如シ。鏡北月ノ花
 紋細キ一髪ノ如リ。織毫模糊ナシ。刀ハ長短ノ差有ミ
 ニ。反ナシ。土鏽骨ヲ侵シテ。其状ヲ存セス。甲冑モ亦鏽
 積朽敗レテ。全形ヲ見ル事ヲ得ス。相傳フ昔
 安徳帝。西海ノ難ヲ避玉ヒ。終ニ此地ニテ崩御ノ。

其窟ヲ院ノ社ト稱シ。其陵ヲ。院ノ塚ト院ハ院ノ御所
 物換リ星移リ。イツシカ陵ノ所在ヲ失シカ。此塚。
 院ノ社ヲ去事遠カラス。是ナニ疑フベシモアラ又院ノ
 塚ニシテ。何レモ 帝ノ御物ナルベシト。土俗ノ云タル
 由ヲ記セリ。此物件。尺ノ阿某候ノ秘藏トナリシヲ。
 し乎秋。堂兄堀素山ノ亭ニ於テ。靜甫。佛庵。牛山。
 春海ト俱ニ熟覽スル事ヲ得タリ。靜甫函人春靜白字靜賦
 按ニ古代ノ甲冑。鉄板ヲ釘屬ツグニシタル物ヲ聞ズ南北朝
 ノ頃ニ至テ始テ鉄朋ノ名アリ
 安徳天皇ノ朝ヲ去テ百有余年。又世ニ傳ル所ノ。
 古鎧ヲ以テ是ヲ推スニ。安徳帝ノ前ニ。二百有余年。
 後百有余年。イマタ此如キ製ノ物有事ヲ聞ス鏡ノ
 古色。刀ノ直割。千歳ノ遺韻オノヅカラ存ス。此ニ依テ

是ヲ見レハ。安徳帝ノ陵ニアラサル一明ラケシ。續日本記ニ。
 桓武天皇。延暦十年六月鉄甲三十領。
 仰下諸國トアレハ上古ノ武臣ノ
 冢ナルヘシト云ヌ

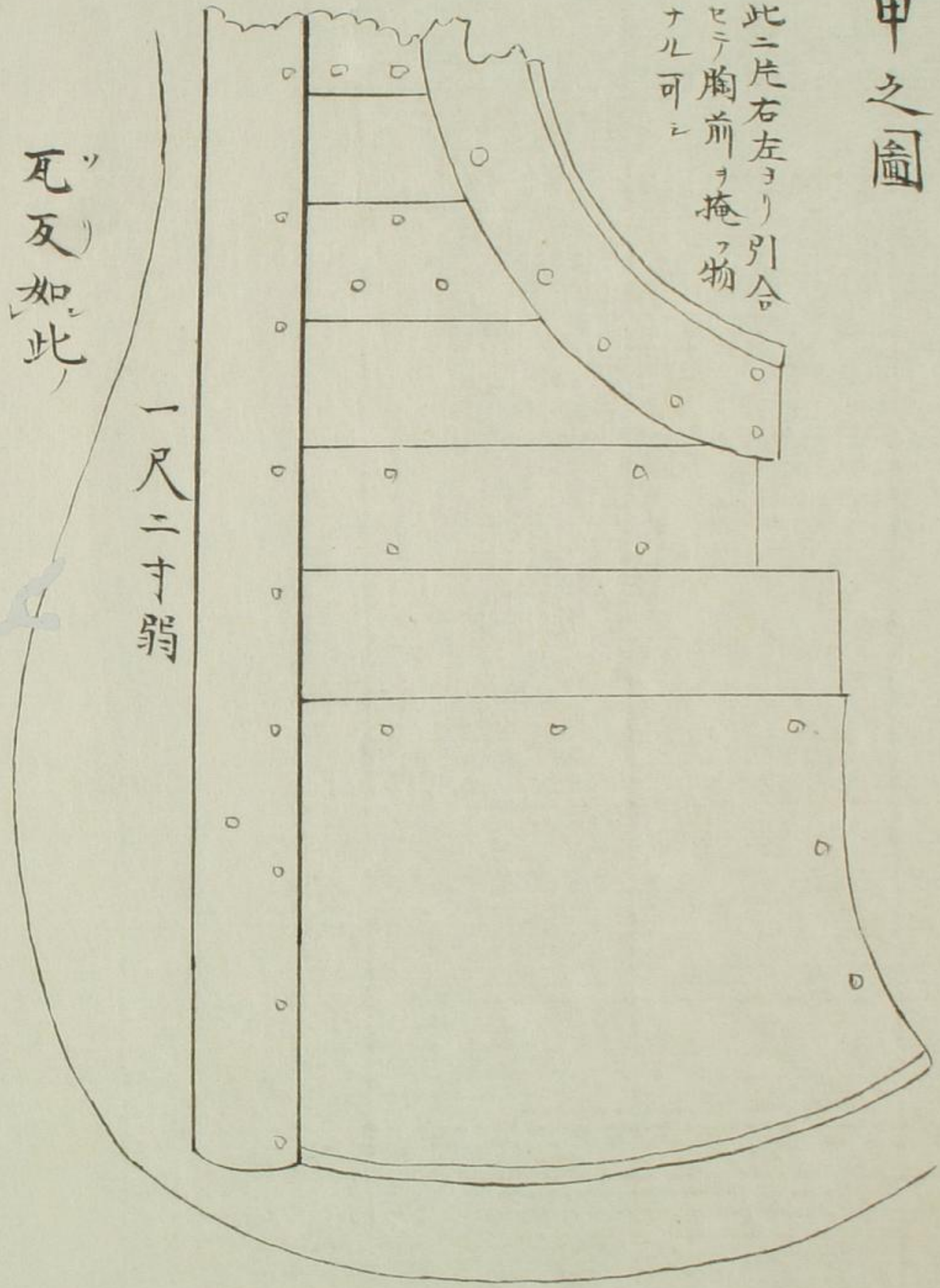
高四寸二分
 徑上三寸五分
 同下七寸

頂上孔



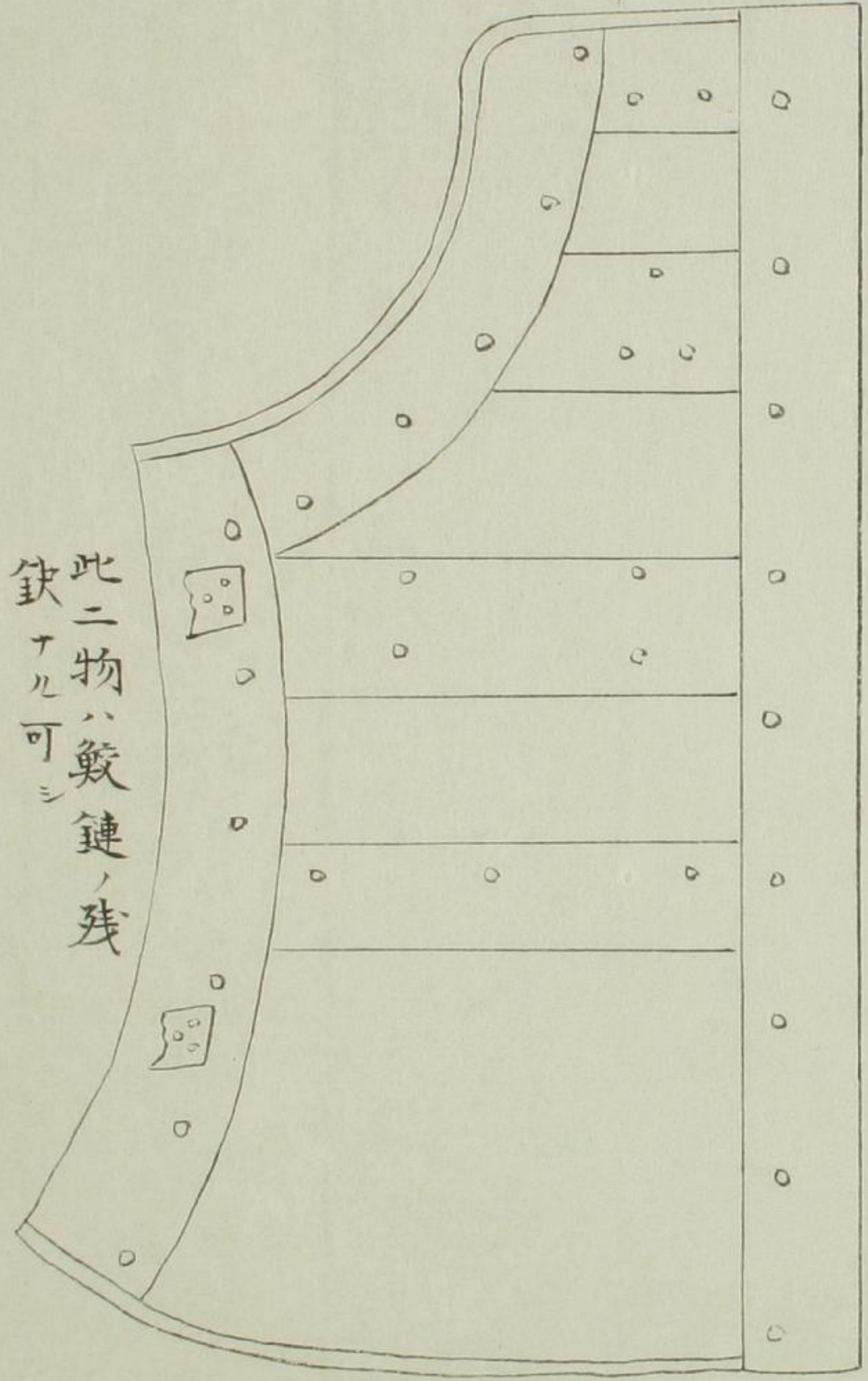
甲之圖

此二片右左ヨリ引合
ヒテ胸前ヲ掩フ物
ナル可シ



瓦反如此

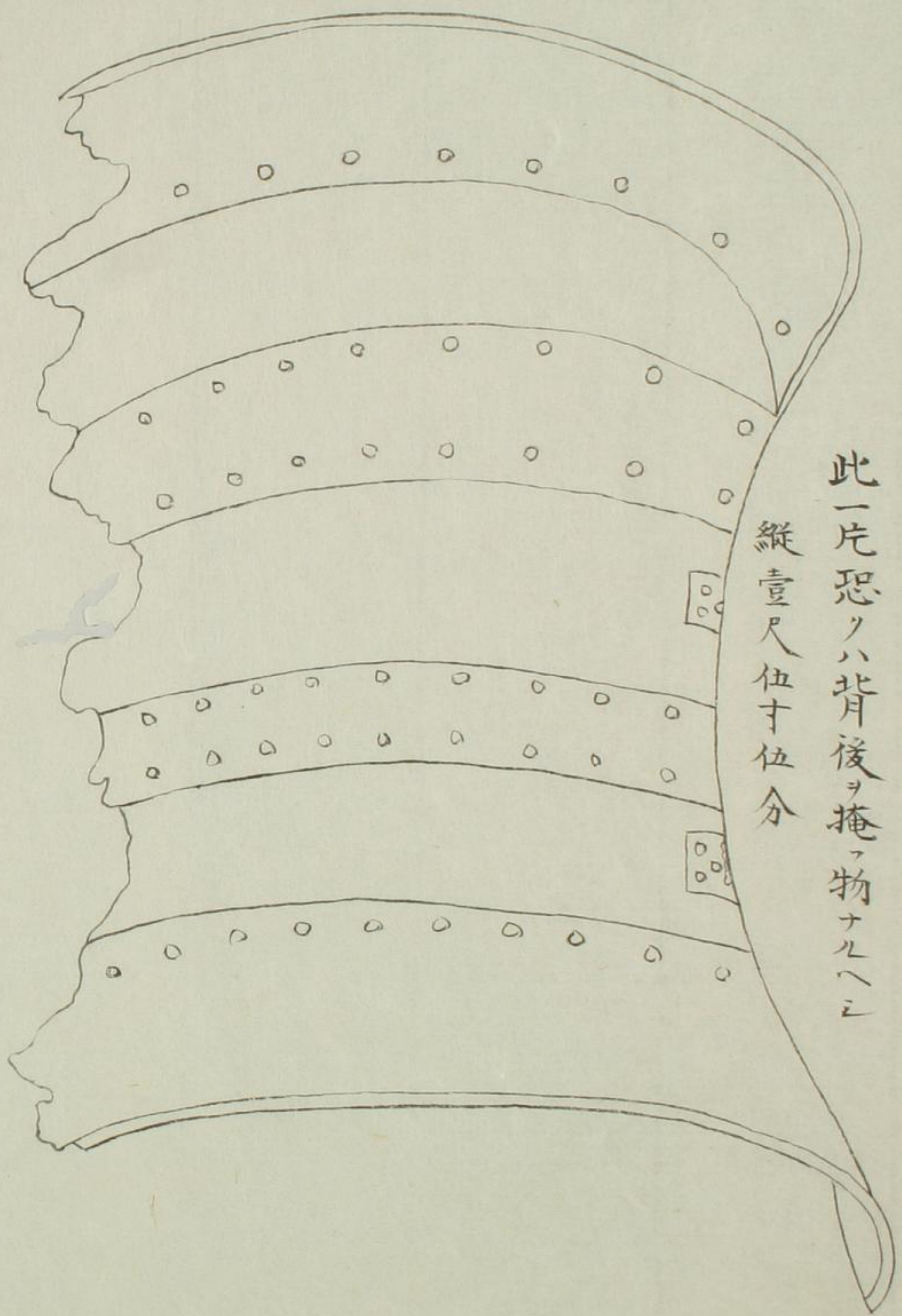
今十寸



一尺二寸強

此二物ハ鍔鏈ノ残
鉄ナル可シ

九寸



此一片恐クハ背後ヲ掩フ物ナルヘシ
縦壹尺伍寸伍分

○金澤文庫

一 武藏国久良郡金澤ノ文庫ハ北條越後守貞顕カ建ル所也。佛書ニハ朱肉儒書ニハ黒肉ヲ以テ印ヲ踏メリノ印文ハ文庫ノ旧地ナル故。称名寺ニハ當時ノ書籍數卷ヲ存セリトハ聞ケリ然レモ間々書賣ノ手ニ流ルモノアリ古物ノ散逸スル惜ムヘキ事ニアラスヤ

金澤文庫

○鯨口

一 佛堂ノ前ニ掛ル鯨口ノ事ヲ古クハ金鼓ト云ケルニヤ京師壬生寺ニアル鯨口ノ銘ニ云
地藏院奉鑄顯金鼓壹口

正應元丁五月廿九日鑄物師大工大和權守土師宗貞

○ 杖桑木

一 伊豫風土記云。上古有大本。一曰桂木。一曰臣木。其實曰椹。今桂木ノ朽残リメル者。豫州。伊予郡。森林村ト云地ノ海底ヨリ出。又同所ニ桂谷ト云地アリ。其辺方一里程ノ間ヲ堀ハ古木ヲ得。土人桂木ノ根ナリト云。二種共ニ同物メ。則世ニ稱スル杖桑木也。清ノ玉漁洋カ香祖筆記。桂板ト云物是ナリ

○ 刀 劔

一 按ニ多知ハ刀劔ノ惣稱ニ物ヲ断切ノ謂ナリ。劔ハ都留藝ト訓ニ刀

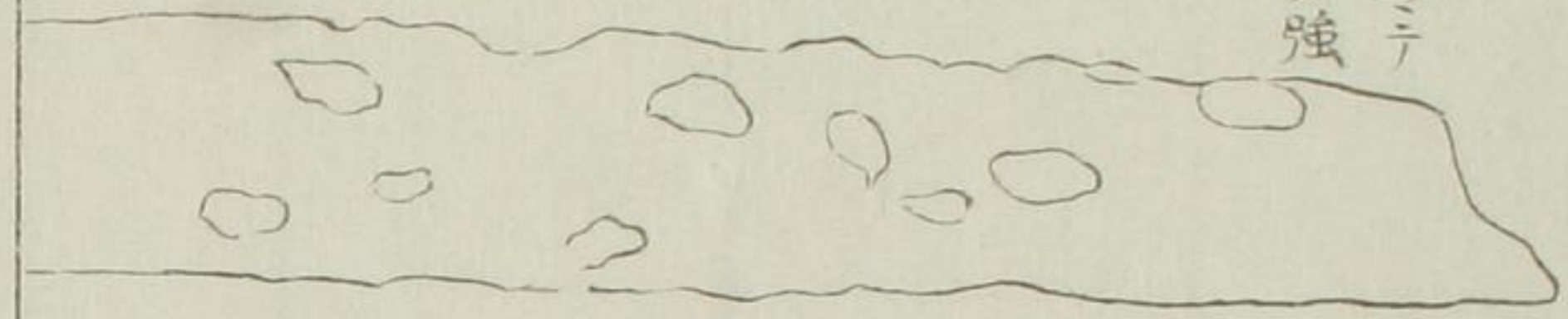
加太那ト訓ス。古事記ニ都牟刈之太カ尺。又都流岐能多知尺アルハ尖タル大刀謂フニテ。則語及ノ太カヲ云ナリ。今モ畿内ノ人ハ尖ル事ヲツンガリニシト云東國ノ俗ハ。チヨシガツタ尺云。其言ノ大ナハ一也。都牟刈ノ牟ヲ留ニ通ハシ。我里ノ二言ヲ反セバ藝ノ一言トナルナリ。加多那ハ斤及無ノ義ニ。諸及ノ大刀對シタル訓ナリ。能登守源順。和名鈿云。四聲字苑云。似テ刀而兩刃曰劔。而一刃曰刀。トアルゾ。據トハスヘキ

○ 古刀

往年北条鈿。南都ニ歸省セシ時。彼地ノ和賀郡。北鬼柙ト云取在所。蝦脊ノ古墳ヲ發キテ。古刀ニ把ヲ得タル人アリ。エニ事久遠。質已ニ鬆脆シテ用ニ堪ズ。鈿就テ其刀ヲ見形ヲ押テ圖ヲ作ル。予モ摹寫シテ一通ヲ収ム。原圖ヲ縮テ尤ニ見ハス。

古刀圖

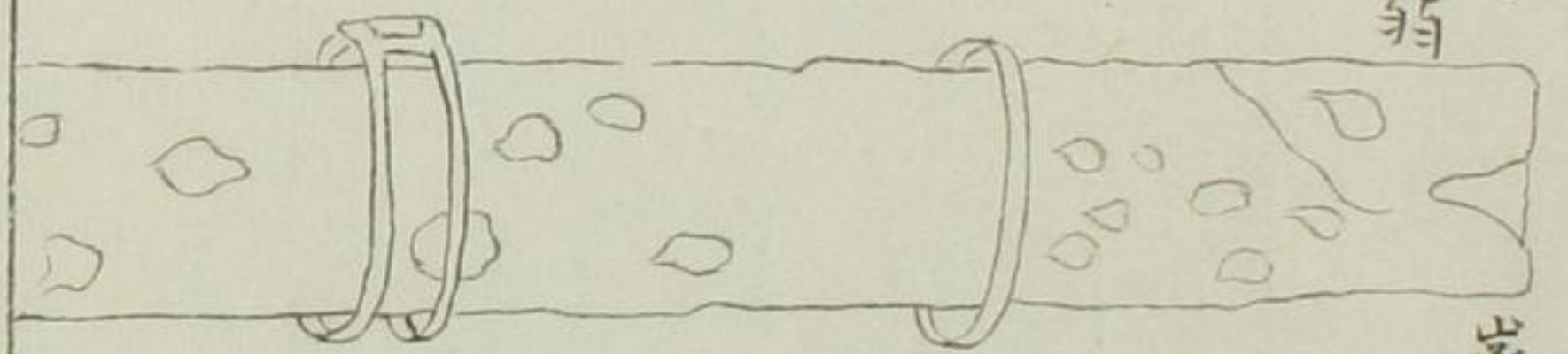
切先ヨリ頭ニテ
二尺五寸四分強



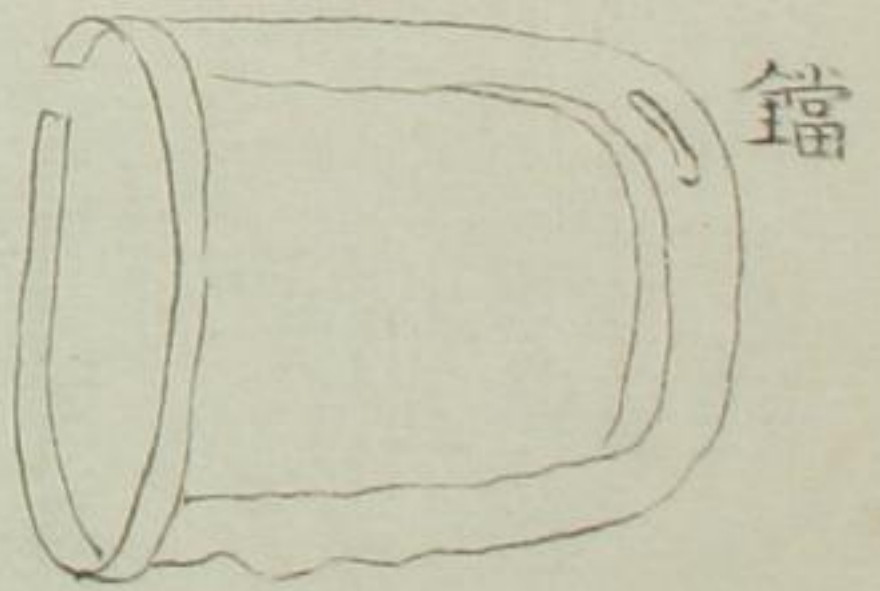
峯二分

此所ニテ幅一寸一分

長二尺二寸八分強
幅一寸一分弱



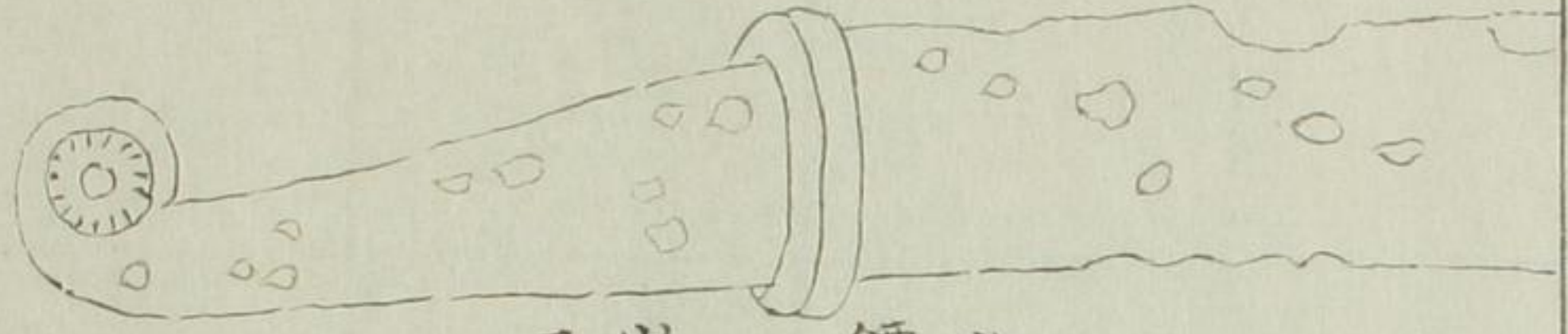
峯二分



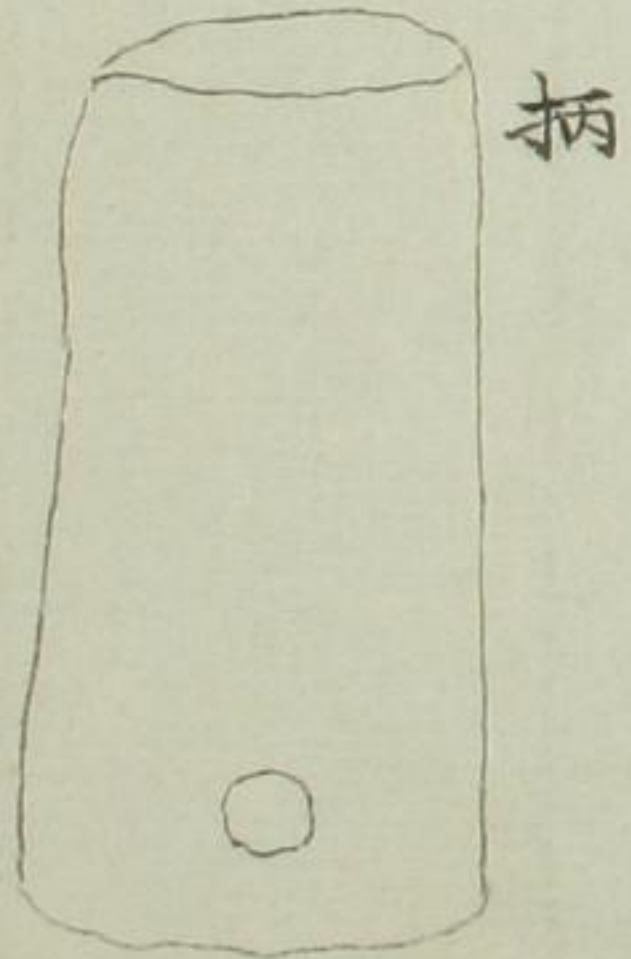
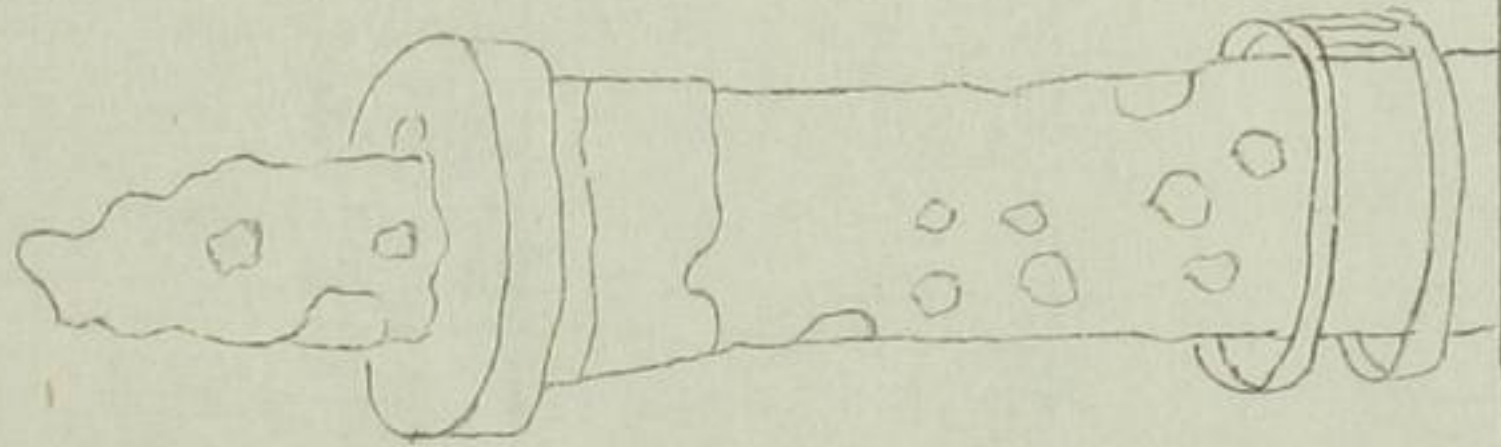
鐙

地金四分ノ如ク鍍金ノ
剥タル痕アリ政一ノ足テ
足鉤鐙柄トモニ皆同鞘
ハ折テ無シ柄ハ麻布ニテ
巻タルガイサカ残り在此
トナリ大サ何モ番ノ如シ

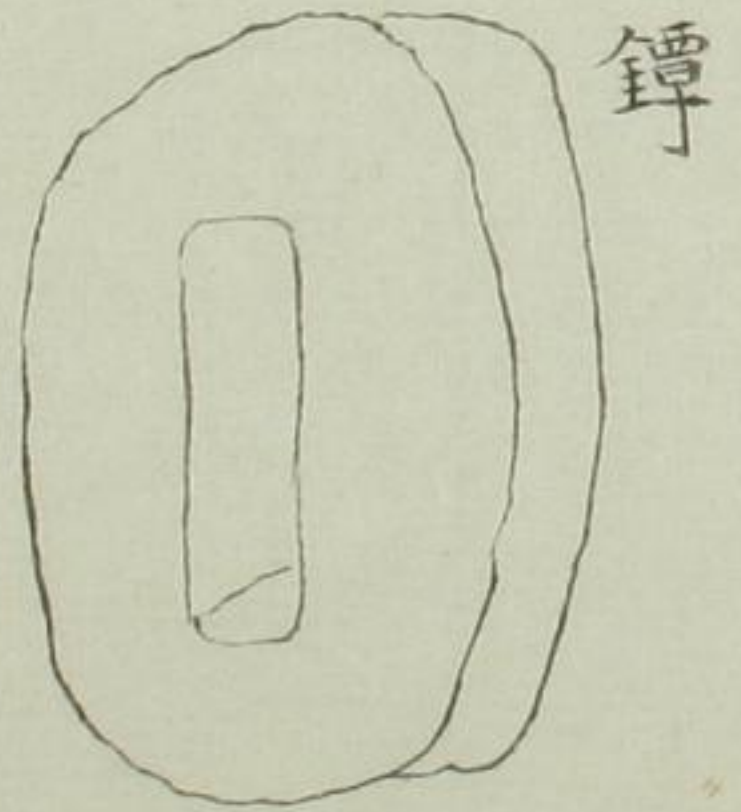
鐙柄トモ作
付ニテ拔ス



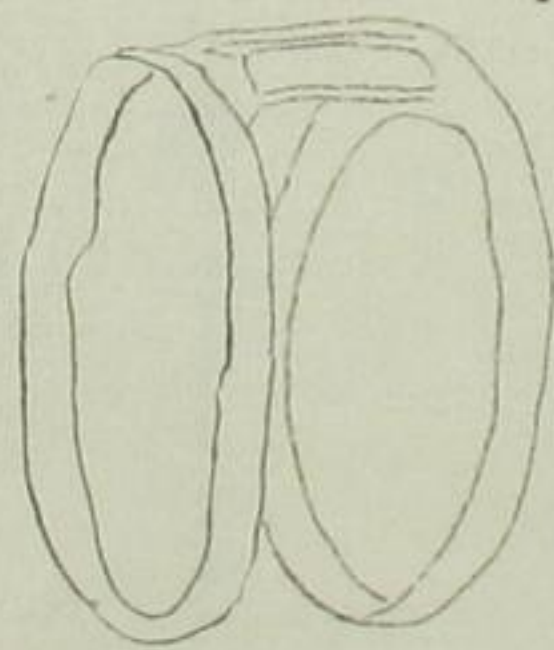
峯二分
鐙元ニテ幅一寸強
峯四分
刃方二分



柄



鐙



足ニ足同シ

○蚊帳画雁

蚊帳ニ雁金ヲ染。或ハ紙ニテ切テ付ル事。其由來ヲ知人ナシ。按ルニ物理小識ニ。夏月線ヲ染蝙蝠血。横ニ縫ニ帳額。蚊不入ト載タルヲ見レハ蝙蝠ハ蚊ヲ喰フ物故厭勝ニ斯ハスル成ヘシ恐ハ崎畧ニ客寓ノ清人。夏ノ頃此意ニテ。帳額へ蝙蝠ノ形ヲ草画ニ書テ。蚊ヲ避テ呪トセシ事ナド有リ。好事ノ人。此邦ノ蚊帳へモ画ケルカ。轉傳シテ。何ニカ雁金トハ成ケルニヤ画筆ナドニ泥畫ニ。蝙蝠ヲ字意ニテ如此各メムモアレバナリ。

○古印

西寺目代ノ印ハ京師九條ニ在リ前姫藩ノ醫官山田安貞秘藏ナリ。伏水ノ一古家ヨリ得タル物ナリト云百濟寺ノ印ハ和州十市皇極天皇始テ造ラセ玉フ予友北條鉉カ所藏ナリ何レモ希世ノ珍玩ナリ。



銅印

百奇
寺印



○瓦偶人

去ル戊午ノ歳。或人上野國那波郡。波志江村。相山ト云所ニテ見タリトテ。瓦偶人ノ像ヲ圖ス。其状奇古ニシテ。聊太古男女ノ服飭ヲ想像スルニ足モノナリ往年毛利讃州公

瓦偶人之圖

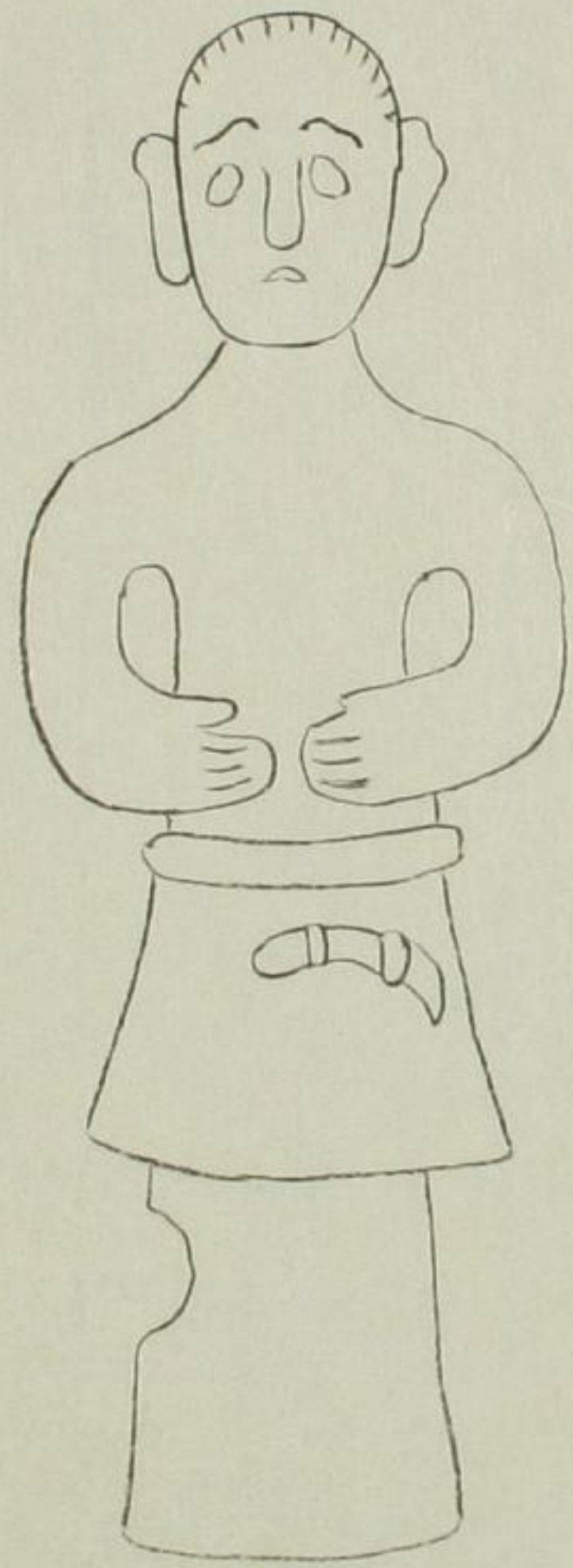
中良按ニ頸ニ掛
タルハ御統ノ玉腕
ニ纏ヒタルハ午玉ナ
リ上古ノ制ヲ考
レハ此テ像ハ女ト
見ユ。



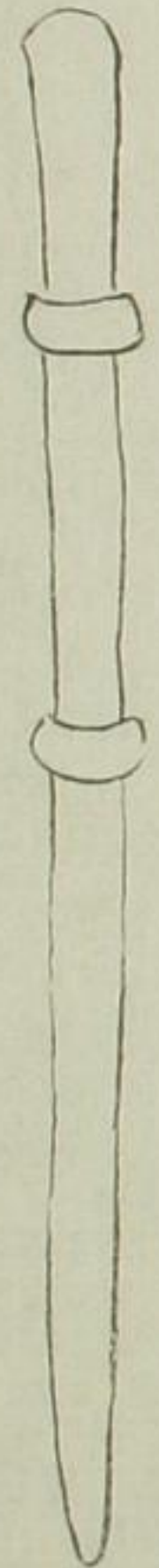
長ニ尺余

穴アリ

腰ニ佩タルハ^{ヒモヲカクナ}紐小刀ナ
リ此像ハ男ト見ユ



原本云。衣帶是ト同クシ
テ。劍ト覺シキ物ヲ佩メル
像アリ形箇ノ如シ。長サ
五寸許。中良按ニ即上古
ノ劍ナリ。其制作ハ法隆
寺ノ上宮太子ノ像。四天
王寺。中之院ノ川勝ノ像
ナドニテ見ル可シ。



ニテ和淳ノ古玩ヲ集^{ツト}ヘ玉^ヒヘシ時。予モ其席ニ倍セシカ此偶
人ノ腰ヨリ以下ノ欵残リタル物ヲ携^リヘ来^レル人アリ。何レモ
明器ノ類ナルヘシトハ之ヲ。何タル事ヲ知タル者無リシカ。近比
此圖ヲ得テ。始テ瓦偶人ノ下體ナルヲ知^リテ。兵^ヘメリ家兄國
瑞汰眼モ。此偶人ノ下體ヲ藏ス。武州栗橋邊ニテ掘得
タル物ナリト云。其質。城刃ノ深草燒ニ似タリ甚脆ニ

○茶變父

連歌師阪昌周。東都山伏井戸ニ僑居ノ氏。隣家ノ老父茶
ヲ好テ作^リケルカ。長ヲ延サズシテ花ヲ開カシメ^ニテ^テ欲シ。
年々切ツメ^テ芥^コミケル程ニ。二年ノ後變^ニテ父トナル唐父ノ
名宜^ハナリト昌周カズケルヨシ予カ幼ナル氏杉田玄老醫。先
國訓。法眼^ヘ語^リケルヲ思出セル終^ニ爰^ニ記ス

